

付録表 1 WordCloud プログラム

```
wordcloud = WordCloud
```

```
    font_path='C:¥Windows¥Fonts¥msgothic.ttc'
```

```
    background_color='white',
```

```
).generate(text)
```

```
wordcloud = WordCloud(
```

```
    font_path='C:¥Windows¥Fonts¥msgothic.ttc',
```

```
    width=600,
```

```
    height=400,
```

```
    background_color='white',
```

```
).generate(text)
```

付録表 2 診療科別魅力

診療科	専門分野	魅力
医療情報部		社会医学系専門医として、公衆衛生学・情報学・行政経験等のスキルを最も具体的に医療現場に還元できる場である。
眼科	黄斑	やりがいがある
眼科	眼炎症	キャリアのフレキシビリティ
眼科	眼科	選んでよかった
眼科	小児眼科、斜視	科学研究としても仕事のペースとしても自分に合っている
眼科		女性が多い
眼科		治療の結果が QOL に直結するので、患者さんの満足度が高い
眼科		診断から治療まで完結できるところ
眼科		視力の改善で患者さんに喜ばれることが多い、独り立ちが早い、時間外労働が少ない、看取りがない
眼科		メディカルとサージカルの両面から診療ができ、他診療科との関連も多く、また、研究も興味深い。
眼科		専門性が高い
眼科		臨床と研究双方にやりがいを感じている
眼科		興味深い
眼科		興味が尽きない。自分の意向次第で初診から治療後まで幅広く携わることができる。
眼科		専門性を持って仕事ができ、やりがいがある
眼科		ライフイベントと両立しながらキャリアを積むことができる。
眼科		経験を積むにつれて自分の医療業務のスキルの上昇を感じることができる
緩和ケア内科		倫理観に則している
緩和医療科		医療以外の分野との協働が幅広く可能であり、人間の生と死を身近に感じられる。
基礎医学		自由に好きなことができる点。研究に興味があった
基礎医学系	神経解剖学	自分のやりたい研究を自分の好きなだけ追求できるところ。
救命救急	外科	やりがいがあります
救命救急	外傷、集中治療、消化器	医師の原点
救命救急	救急外来(ER 診療)	急な病気や怪我の対応をして患者さんの役に立てることが魅力です。担う医師がいなかったから
救命救急	集中治療	やりがい
救命救急		不慮の事故や事件の被害者を治療で救うことができる。救急科の診療経験が将来の専門である法医学に役立つから
救命救急		助かった人の笑顔が半端ない
救命救急		オンオフがはっきりしている
救命救急		行政等病院外との関わり。
救命救急		全身管理ができるところ
救命救急		シフト制が素晴らしい。
形成外科		やりがい
形成外科		外科的手技を身につけながら、広げなかった顔面神経の専門外来を立ち上げながら参加できた。顔面神経をはじめとする統計部再建手術を習得して患者に専門の医療を提供したいと思ったから
形成外科	マイクロサージャリー、顎顔面外科	専門性の高さ
形成外科	再建外科	選択して良かった
形成外科		高度な専門性
形成外科		社会貢献
形成外科		やりがいはあります。
外科	消化器外科	直接治療可能
外科	消化器外科	やりがい
外科	消化器外科	患者に喜ばれる
外科	消化器外科	自分の手で治療可能
外科	消化器外科	使命感、責任感、やりがい

外科	消化器外科、乳腺外科	
外科	乳腺外科	乳がんは予後がいいー治療期間が長いので、患者のライフステージごとに最善の治療が異なり、一人ひとりのベストを一緒に探すことができる
外科		
外科		治療の効果が目に見える
外科	肛門外科	やりがい
外科	肝胆膵外科	やりがいを感じています。
外科	肝胆膵外科	手術が面白い。
外科	呼吸器外科	自分のやりたいことができている、自らのQOLが比較的保たれている
外科	呼吸器外科	内科的な知識も駆使しながら、外科的な治療に従事できる点
外科	呼吸器外科	高い専門性と仕事の自由度（職場、就業時間など）
外科	呼吸器外科	やりがいがある。患者さんに感謝される。
外科	呼吸器外科	手術が面白い、やりがいがある
外科	呼吸器外科	バイタルに関わる臓器を扱いつつも緊急手術などは比較的少ないこと
外科	呼吸器外科	特に感じていない
外科	呼吸器外科	特に魅力は感じない
外科	呼吸器外科	手術や診療などやりがいのある業務
外科	呼吸器外科	面白い
外科	呼吸器外科	やりがい
外科	呼吸器外科	面白い
外科	呼吸器外科	飽きずに続けているので、自分に合っていると思います。
外科	呼吸器外科学会	働きやすい、希少
外科	後期研修中	まだあまり感じていない
外科	小児外科	やりがいがあって楽しい仕事
外科	小児外科	小児の全身を診て、長期間同じ患者の診療に携われる。
外科	小児外科	やりがいがあった
外科	小児外科	やりがいを感じるのですとずっと携わりたいと思う
外科	消化器	手術における自身のスキルアップの実感
外科	消化器外科	患者さんが困っていることに手術はアプローチしやすいところ
外科	消化器外科	技術を生かせる。技術を身につけたかった
外科	消化器外科	手術で命を救う
外科	消化器外科	手術の楽しさ
外科	消化器外科	充実感
外科	消化器外科	手術によって救える命があること
外科	消化器外科	やりがい。
外科	消化器外科	守備範囲の広さ。手技だけでなく、術後管理や診断といった総合力が求められる点。
外科	消化器外科	外科的治療に携わることができる
外科	消化器外科	間違いなかった
外科	消化器外科	仕事から解放される時間が少ないものの、日々の診療においてやりがいを実感しながら充実した仕事と感じている
外科	消化器外科	やりがい
外科	消化器外科	患者さんが元気に退院していく人が多く、達成感が得られる。技術力が身につく。研修で回って興味を持ったから。後から転科しようと思っても難しいと感じたため。
外科	消化器外科	高度技能を発揮手出来る点に魅力がある
外科	消化器外科	あきることなく、いまだ自分に満足することもない。
外科	消化器外科	やりがいがある
外科	消化器外科	自分の手で治すこと
外科	消化器外科	やりがいがある
外科	消化器外科	やりがいがある
外科	消化器外科	やりがい
外科	消化器外科	患者さんの快食快便に貢献できること
外科	消化器外科	やりがい
外科	消化器外科	やりがいを感じます
外科	消化器外科	手術が多くできること
外科	消化器外科・一般外科	楽しい
内科、外科	消化器外科	やりがい。父が消化器外科医

外科	心臓血管	もともとの関心分野に一致
外科	心臓血管外科	やり甲斐がある
外科	心臓血管外科	治療(手術)の結果がダイレクトに現れること
外科	心臓血管外科	自分で師と仰ぐ先生に少しでも近づくため
外科	心臓血管外科	やりがい
外科	心臓血管外科	手術がうまくいったときの達成感、患者さんからとても感謝されること
外科	心臓血管外科	やりがいがある
外科	心臓血管外科	やりがい
外科	心臓血管外科	要求される技術の高度さと、それに少しづつでも近づいていく日々の充実感。
外科	心臓血管外科	大変ですが、非常にやりがいがある診療科だと思います。
外科	内分泌外科	専門性が高い
外科	乳腺外科	医局は慢性的な人で不足で、魅力はない
外科	乳腺外科	やりがいがある
外科	乳腺外科	やりがいがある、専門性が高い
外科	乳腺外科	乳腺外科は術後管理がそこまで大変ではないことと、緊急入院が少ないため、ライフワークバランスがとりやすい方だと思う。また患者のほとんどが女性の方であり、患者さんとの関わりで共感する部分であったり、学ぶことなどが多い。
外科	乳腺外科	診断から治療まで担当できて大変やりがいを感じている
外科	乳腺外科	手術とその後の治療によって、癌を治すことにつながられるため
外科	乳腺外科	普通
外科	乳腺外科	家庭協力あれば両立は何とか可能、最新情報が常にアップデートされている
外科	乳腺外科	女性が多く働き方改革が進んでいる
外科	乳腺外科	働き方において先進的に取り組んでいる
外科	乳腺内分泌外科	女性の人生にかかわる仕事ができる。
外科		手術は面白い
外科		患者とのコミュニケーション
外科		術前の評価、手術内容・手技、術後管理など一連の流れ、緊急時対応に関わる楽しさ。
外科		手術もあるが薬物療法もあり、長く診られる。
外科	乳腺外科	女性医師でのやりがいがある。比較的ワークライフバランスがあり働きやすい
研修医		様々な症例を体験できました。
研修医		研修期間
産婦人科	周産期	やりがい、生命の誕生に立ち会える
産婦人科	生殖内分泌科	やりがい、生命の誕生に立ち会える
産婦人科	婦人科腫瘍、内視鏡手術	多くに手術を経験できる、出産という場に出会える
産婦人科		女性の健康に関わることができ、患者からも安心を得られやすい
産婦人科	産科	母体の神秘、母児を守ることに少しでも貢献できればという生きがい
産婦人科	産科	手術も内科的なこともどちらもできること
産婦人科	産科	出産に行きつくまでの経過に魅力を感じる
産婦人科	産科	楽しく働いてます
産婦人科	産科	やりがいがある。
産婦人科	周産期	母体と胎児を両方救命できること。病気ではない妊娠分娩だが、未知の領域が多いこと。
産婦人科	周産期	やりがい
産婦人科	周産期	分娩に立ち会うことが出来て幸せ。
産婦人科	周産期	生まれてくる命と母の命に関わることができる
産婦人科	周産期	やりがい
産婦人科	周産期	特に産科はスピード感とチームワークが大事で、達成できた時の充実感や、困難時もみんなて解決していける点が良い。
産婦人科	周産期	エビデンスと違い、経験や技術が活かされる
産婦人科	周産期(産科)	やりがいがあり、自分が出産した経験などもいかせていて、天職と思っている。

産婦人科	女性医学	産婦人科は女性の生涯のかかりつけとなれる。外科的内科的にも活動できる。未知の分野も多く研究しがいがある。
産婦人科	女性医学	女性の一生に深く関わられる。極めてプライベートな分野であるので、女性医師の特性が生かせる。周産期・新生児、腫瘍学、生殖内分泌、女性医学とそれぞれに特徴があり、好きな分野ないしは得意な分野を生かしやすい。
産婦人科	女性医学 腹腔鏡手術	予想以上に多忙であるが、やりがいはあるし分野が広いので人生のステージに合わせた働き方の幅があると感じている。専門性も高い。
産婦人科	生殖医療	女性の一生のさまざまな時期に寄り添って診療ができることが今でも楽しいです。
産婦人科	生殖専門医	やりがいがある
産婦人科	婦人科	婦人科は腫瘍の手術、内視鏡、妊娠分娩、女性ヘルスケアなど様々な分野を経験でき、幅広い分野を勉強できることに喜びを覚えている。
産婦人科	婦人科	出産の喜び、比較的若い患者が多いため、治療のしがいや手応えを感じる点
産婦人科	婦人科腫瘍	診療内容の幅広さ
産婦人科	婦人科腫瘍、婦人科内視鏡手術	多くの手術を経験できる
産婦人科	婦人科腫瘍、臨床遺伝、子宮内膜症	学問分野が広くて、一生やっても飽きない。
産婦人科		お産はやっぱり良い
産婦人科		日々、知らないことを調べたり、興味が尽きません。
産婦人科		命の誕生に関われること
産婦人科		手技も面白く、学問的にも面白い
産婦人科		外科的治療、内科的治療、ほか精神心理や社会・福祉などに至るまであらゆる領域に関わる医療であること。
産婦人科		様々な面でやりがいを感じて働いている。女性の健康管理に携わりたと思ったから
産婦人科		メリハリを持って働ける、やりがいを感じる、飽きないなど。
産婦人科		やりがい
産婦人科		やりがいがありライフワークバランスも良い
産婦人科		やりがいがある
産婦人科		人の一生にかかわれる。
産婦人科		魅力そのものを考えたことがない
産婦人科		いろいろな分野がある。generalでも幅広く、専門を突き詰めると先がいくらでもある。
産婦人科		女性の生涯に関わることができる。やりがいがある。
産婦人科		当初の考えとは違う方向になったが、やりがいを感じて働いている
産婦人科		魅力があるかどうかは分からない
産婦人科		やりがい、自分に合っている
産婦人科		いろいろな働き方の可能性がある。自分の性格に合うと思ったから
産婦人科		やりがいがある 専門性が高い
産婦人科		選択して後悔はない。やりがいがあり、出産から緩和まで、複数の世代にわたり、女性の一生にかかわることができる分野で、幅広い領域の診療が可能だと感じている。
産婦人科		感じています
産婦人科		生命の誕生と悪性腫瘍など生命の終わり、両方に携わることのできるやりがい
産婦人科		おめでとうと言えることが多い。
産婦人科		やりがいがある ライフイベントに関して理解がある
産婦人科		やりがいがある
産婦人科		女性が多い職場であり、家庭との両立の理解がある。
産婦人科		働きやすさ
歯科	矯正歯科	専門性がある診療科は習得に時間がかかるがその分自分の付加価値を高める
歯科口腔外科		忙しいかやりがいがある。
歯科口腔外科		外科処置が楽しい。
歯科口腔外科		口から食べる幸せのサポートが出来ること

歯科口腔外科		魅力なし
歯科口腔外科		診療内容が多岐にわたっており魅力のある分野だと感じている。
歯科口腔外科		やりがい
口腔外科		やりがい
耳鼻咽喉科	頭頸部外科	
耳鼻咽喉科		歳を取っても長く仕事ができる、神殿から検査、治療まで自科で完結できる
耳鼻咽喉科	耳科	診療内容の充実感。ワークライフバランスのとりやすさ。
耳鼻咽喉科	鼻科学	正解だったと感じている
耳鼻咽喉科	鼻科学 アレルギー	扱える範囲、年齢層が広い 手術の技術が身につく
耳鼻咽喉科		疾患の種類が多い
耳鼻咽喉科		やりがいがある
耳鼻咽喉科		幅広い年代の方と接することができ、診断から治療まで一貫して自分で担当することができる
耳鼻咽喉科		雰囲気がよくやりがいを感じながら働ける
耳鼻咽喉科		初診から術後管理まで一貫してみれるところ。自分自身が耳鼻科疾患を有していたから
耳鼻咽喉科		自立して仕事ができやりがいがある
耳鼻咽喉科		手術、外来、病棟管理等という風に多様な業務があり、分野も多岐にわたる。老若男女の診察ができる。QOL に直結する治療を行える。
耳鼻咽喉科		興味やイベントに応じて専門とする分野や働き方の選択肢が広く、勤務が継続しやすい
耳鼻咽喉科		手術も手術以外もできる。専門性を持てる。
耳鼻咽喉科		子供から大人まで診療できること。さまざまな手術や症例に関わることによって少しずつ自分自身の成長を感じることができている。
耳鼻咽喉科		自分に合っている
社会医学系	公衆衛生学	社会とつながる実学であること
小児科	新生児学	
小児科	腎臓	良かった
小児科		可愛い笑っているから疲れない
小児科		
小児科		元気をもらえる
小児科	アレルギー	小児科は疾患だけではなく社会的な環境も考慮しながら総合的にみるところが魅力
小児科	アレルギー	自分の子育てにも役立つし、自分の出産育児経験が仕事にも活かせること。
小児科	アレルギー	子供が可愛い
小児科	アレルギー	成長する子供みれること
小児科	感染症	総合診療と専門性のバランスを保てる
小児科	血液 腫瘍	実子を得てから特にやりがいを感じる
小児科	血液・腫瘍	楽しくやりがいがある
小児科	血液・腫瘍	やりがいがある
小児科	血液腫瘍	子供には将来があるのでやりがいがある。
小児科	血液腫瘍	治ったこどもをみること
小児科	血液腫瘍	診療した子供たちの成長を感じられる
小児科	血液腫瘍科	頑張っただけと感ぜました。
小児科	循環器	この専門分野を選んで、後悔していない自分がいることがうれしいです
小児科	循環器	やりがいがある
小児科	小児血液腫瘍	世の中や人のために役立っていると感じられる
小児科	小児循環器	未来がある
小児科	小児循環器	総合診療（新生児、検診、一般、救急）ができることに魅力がある。
小児科	小児循環器	色々な疾患を診ることが出来る
小児科	小児神経	患者さんの救命に全力を注げる。子供たちの笑顔に癒され、とても感謝される場所。
小児科	小児神経	幅広い一般診療と、専門性の両立が出来る
小児科	小児神経	未来を担う実感ができる
小児科	小児神経科	患児の笑顔や成長していく様子に、いつも元気をもらって

		います。
小児科	小児腎臓	全身を見ること、成長が見られること
小児科	小児腎臓	やりがいがある。自分が腎疾患だったので
小児科	小児腎臓	追いつかれる喜び、社会学的に次世代を育てる。研究
小児科	小児腎臓科	子供が可愛い
小児科	小児内分泌	小児科の魅力はなんといっても、0生日から思春期、そして場合によってはその先もみていくことができ、患者さんのライフイベントに寄り添えることだと思います。新生児期に大変な思いをした児が、元気に学校に行く姿などもみると、やりがいを感じます。時に、「先生みたいな医師になりたいです。」と言われたりすることもあり、そんなときは、本当によかったと思います。
小児科	小児内分泌	天職
小児科	小児内分泌	やりがいがあり、いつまでも興味をもって続けられる
小児科	小児内分泌、臨床遺伝	科をきめてからもいろいろな分野を選択できる
小児科	新生児	こどもの助けとなれる点。こどものジェネラリストというものをスペシャリストとして診療できる点
小児科	新生児	全身管理ができる
小児科	新生児	やりがいがある
小児科	新生児	未来ある命を救う、全ての臓器を扱うことに魅力を感じる
小児科	新生児	今後の無限の可能性を秘める子どもたちの診療はやりがいがいしありません。
小児科	新生児医療	未来を育てる医療というかけがえのない診療科である
小児科	新生児科	赤ちゃんの命や将来に直結する診療でありやりがいを感じます
小児科	神経	あまり魅力は感じない
小児科	腎臓	k
小児科	腎臓	子供の成長が見れる
小児科	腎臓小児科	やりがいがあります。
小児科	内分泌	子どもはかわいい
小児科	内分泌	こどもたちが成長していくのみれるのが楽しい
小児科	内分泌	患者みんなを医療スタッフ、家族、学校などみんなでささえていくのがよい
小児科	内分泌 遺伝	小児と関わり満足している
小児科	内分泌・糖尿病	大変だけど、医局人数が多いわけではないので、自分の存在意義を感じるようになった。
小児科	膠原病	やりがいがある
小児科		子供と毎日接することができ、保護者に安心を与えることができる。患者の成長を感じられる。
小児科		自由度の高さ
小児科		やりがいを感じる。患者さんと関わるのが楽しい。
小児科		魅力というよりは自分の判断がその子の人生を左右する恐ろしさを感じる。
小児科		子育ても小児科に関わることであり、産休育休がキャリアアップにマイナスにはならない。
小児科		子供は可愛い。
小児科		子供は回復力が高く、重症患者も上手くいけばとても改善することが多いためやりがいがある。
小児科		赤ちゃんや子供が元気に帰っていくのを見ると、やりがいを感じられる。
小児科		子供がかわいい
小児科		やりがいがある
小児科		やりがいがある
小児科		専門性が高い
小児科		やりがいがある
小児科		患者さんとのかわりかた
小児科		子どもは未熟な反面、早期に介入すれば軽快・治癒も早い(ことが多い)事
小児科		自分の子育ての経験が役に立つ
小児科		やりがい
小児科		かなり違う
小児科		自分の子育てに役立つ
小児科		未来のある子どもたちに携われること。

小児科		子どもたちの純粋さ、将来性
小児科		診療中にも癒しがある。
小児科		大変だけどやりがいがある
小児科		他分野の疾患と関われること。こどもがかわいいこと。
整形外科		手術の良し悪しが画像で明確にわかる
整形外科		
整形外科		
整形外科		結果がしっかりわかる、手術ができる
整形外科		ほぼ全員の患者が元気になって退院する。自身の興味や趣味に通じるものがある
整形外科		予想通りで楽しい
整形外科		やったことが形になる
整形外科		みんな元気になるからこちらが深刻になることがない
整形外科	リハビリテーション	患者のADLに直結する
整形外科	外傷	雰囲気が良い
整形外科	外傷整形外科	やりがいはあるが大変
整形外科	骨軟部腫瘍	やりがいがある
整形外科	手外科	患者のケガなどが治ること
整形外科	手外科	やりがいがあり、仕事が充実している
整形外科	上肢班	趣がある
整形外科	整形外科	良くも悪くも期待通り
整形外科	整形外科	たのしい
整形外科	脊椎	手術による治療効果が非常にクリアでありやりがいを感じた
整形外科	脊椎	患者満足度がたかい
整形外科	脊椎	自分の手でよくなっていく患者さんを見ることが出来る
整形外科	脊椎	働きがいがある
整形外科	脊椎外科	働いた診療科の雰囲気、学問としての興味
整形外科	脊椎外科	楽しくてよかった
整形外科	脊椎外科	手術件数の多さ
整形外科	脊椎脊髄	手術の面白さ、まだわからないことに対する研究
整形外科	脊椎脊髄外科	やりがい
整形外科	脊椎脊髄外科	やりがいがある
整形外科	脊椎脊髄病外科	感じています。
整形外科	膝関節	整形外科
整形外科		やりがいがある。カバーする範囲も広いが奥も深い。
整形外科		やりがいがある
整形外科		やりたいことができる
整形外科		仕事にやりがいを感じる
整形外科		楽しかった
整形外科		手術が楽しい。大学院の研究が整形外科領域だったから
整形外科		機能再建
整形外科		よかった
整形外科		診断から治療まで自分で行うことができ、患者さんが良くなる過程が分かりやすい。
整形外科		明るくて楽しい
整形外科		給与が良い
整形外科		自分が携わった患者から感謝されること
精神科・心療科		加齢による身体の衰えがあっても仕事の能力低下が少ない
精神科・心療科		自分がやりたいことが仕事という魅力
精神・心療科	てんかん	専門性が高くやりがいを感じる
精神・心療科	心療内科	人間についての理解が深まり、学びが多く、やりがいがある。
精神・心療科	精神科	わかっていないことが多く研究が進む分野であること
精神・心療科		疾患に興味がある
精神・心療科		身体的負担が少ない
精神・心療科		その方の病気の面だけではなく、生活や人間関係、今後の目標など、全般的に関われるところ
精神・心療科		毎日非常に充実しています 内容も飽きずに仕事を続けられてます
精神・心療科		専門性の高さ

精神・心療科		患者さんとじっくり向き合える
精神・心療科		飽きない
精神・心療科		やりがいがあり、社会からのニーズも高い 生涯を通じてスキルアップできる
精神・心療科		患者さんの人生そのものを支える手伝いができる。時間外や休日は当直医が対応するというのが徹底されており、ワークライフバランスがとりやすい。
精神・心療科		イメージよりもさらに奥深く、幅広い分野でした。
精神・心療科		やり甲斐がある。
総合診療科		地域、病院のニーズに応えることができる
総合診療科		
総合診療科		全人的な医療と地域を包括的に見る医療ができること
総合診療科		
総合診療科	リウマチ膠原病、家庭医	いろいろな働き方ができる
総合診療科	家庭医	好きな仕事をやっていると感じています。患者さんと話すのがとても楽しいです。日本中に医学教育に仲間が多くいつも一緒に学べて楽しいです。
総合診療科	家庭医療	「病氣」ではなく「病人」を治療するという価値観
総合診療科	感染症、老年内科	外来等で患者さんの内科疾患をある程度ワンストップで診療できる
総合診療科		診療内容はとても興味深い上に、日々の医学の進歩に遅れないように情報を得ることができる。また、研修医の教育に関わることができることはこの上ない喜びです。
総合診療科		幅広い分野で、どんな人の相談にものれ、生活に近い分野であり性に合っていると感じました。また、病院でなくクリニックで実践することもでき、また健診など予防医療にもリンクする分野なので、子育て中など勤務形態を柔軟に変えて働き続ける（少しでも誰かの健康の役に立つ）ことができると感じました。
総合診療科		ニーズがあることを実感する
総合診療科		患者の個別性
総合診療科		外来診療の面白さ
総合診療科		様々な病態についての知識が幅広く必要
総合診療科		臓器別診療に特化せず、よほど専門性の高い内容以外は、一人で全人的に診ることができる点。
総合診療科		時代のニーズに適した診療科である点
総合診療科		飽きない
総合診療科		やりたいことができているわけではないので、まだ十分魅力は感じてない
総合診療科		学ぶことは多いがやりがいを感じる
総合診療科		色々な患者さんが来られる
総合診療科		多くのことに興味を持ち続けることができる
総合診療科		やりがいがある。
総合診療科		様々な場面で多様性を実感できます。
総合診療科		はば広いやりがいを感じられる
総合診療科		やりがいがある。
総合診療科		職務内容 医局の人間関係
総合診療科		新しい分野と社会のニーズからのやりがい
総合診療、家庭医療		人間に地域に関われる
内科	血液内科	
内科	呼吸器内科	やりがい
内科	循環器内科	
内科	循環器内科	やりがい
内科	循環器内科	
内科	循環器内科	
内科	消化器	現実は甘くない
内科	消化器内科	
内科	神経内科	よかった
内科	神経内科	新鮮
内科	神経内科	
内科	神経内科	
内科	神経内科	
内科	神経内科	ニーズ高い、やりがいあり

内科	腎臓内科	
内科	生化学	
内科	糖尿病	医局の指示。大学院で研究してた
内科	糖尿病内科	
内科	内分泌糖尿病内科	やりがい、全身を見れる
内科	脳神経内科	
内科	脳神経内科	
内科		若くして離島行かされた。国試前肝臓でその医局のある大学病院に入院
内科		
内科		
内科		
内科、麻酔科	消化器内科	手技が多くやりがいがある
内科		患者との関わりの仕方で治療の成果に
内科		
内科	リウマチ	患者さんとの信頼関係や患者を得る
内科	リウマチ・膠原病科	地域的に医師が少ない分野の診療科のため、ニーズも多く、やりがいがある。
内科	リウマチ・膠原病科	幅広い知識を必要とする点
内科	リウマチ・膠原病科	やりがいがある
内科	リウマチ・膠原病内科	一次、二次医療機関で診断がつかなかった症例の診断・治療ができること。
内科	リウマチ・膠原病内科	大変興味があります。
内科	リウマチ膠原病	治療が進歩しており、薬物療法で患者をよくできる。研究分野として興味があったから
内科	リウマチ膠原病内科	教科書に収まりきれない症例があること。しっかりと教育してくれそうだったから
内科	感染症	様々な疾患を見ることができ、刺激がある。適切な治療で患者さんがよくなるスピードが速い。
内科	感染症	やりがいがある
内科	感染症内科	診療科特有の魅力は特別なし。患者さんから感謝されることに医師としての魅力を感じる
内科	肝臓内科	やりがいがある
内科	肝臓内科	やりがいがある
内科	血液	興味深い
内科	血液内科	専門性が高く、難しい症例に対応することに生きがいを感じる
内科	血液内科	患者さんの生き方に深く関われるところ。
内科	血液内科	忙しいがやりがいがある
内科	血液内科	やりがい
内科	血液内科	やりがいがある
内科	血液内科	内科の中の内科としての自負があり、考えていた通りの職業だと感じている
内科	血液内科	血液内科医が少ないので、若くても自分の存在を大きく評価してもらえると感じた。
内科	血液内科	科学的思考力が培われる
内科	血液内科	最先端の医療提供
内科	血液内科	患者と一対一で向き合える
内科	血液内科	やりがいあり
内科	血液内科	治癒を目指せる患者が多い。臨床と研究が近い。
内科	血液内科	新しい知見を学ぶ事ができ、治療法や病態解明が常に進んでいく事。
内科	血液内科	やりがい
内科	血液内科	難しい病気に冒されていた患者が元気に外来にやって来て他愛もない話で笑いあえる瞬間。
内科	呼吸器	飽きない
内科	呼吸器	飽きない
内科	呼吸器・感染症	想像通り
内科	呼吸器アレルギー内科	幅広い疾患に携われる
内科	呼吸器内科	全身管理
内科	呼吸器内科	やりがいのある仕事
内科	呼吸器内科	急性期から慢性期まで、感染症や腫瘍、アレルギー、気胸などの処置があり、幅広く対応でき、どの地域でもニーズ

		がある。
内科	呼吸器内科	常に患者さんの寄り添える。初期臨床研修医の時に興味があったから
内科	呼吸器内科	生命・人生に深く関わる部分がやりがい
内科	呼吸器内科	人とのつながり、関連病院とのつながり、専門医取得、学位取得
内科	呼吸器内科	働きがいを感じる
内科	呼吸器内科	自分の性格に合っている
内科	呼吸器内科	急性期から慢性期まで幅広い患者さんを診ることができる。
内科	呼吸器内科	想定通りであること。
内科	呼吸器内科	比較的ライフワークバランスを自分が目指しているようにとれている
内科	呼吸器内科	守備範囲の広さ
内科	呼吸器内科	女性医師が多く、妻も同じ医局員であり、当時は医局や土日病棟に子供連れできたりすることができた点。もともと救急部でバーンアウトしたから
内科	呼吸器内科	さまざまな分野の患者に対応できるようになった
内科	呼吸器内科	指導体制が充実している
内科	呼吸器内科	感染症、癌、膠原病など多岐にわたる疾患を診察できる点が魅力的だと思います
内科	呼吸器内科	多岐に渡る領域をカバーしていることに魅力を感じる
内科	呼吸器内科	やりがいがある。
内科	呼吸器内科	やりがいがある
内科	呼吸器内科	やりがいを感じられる
内科	呼吸器内科	守備範囲の広さ
内科	呼吸器内科	専門医が少なく、ニーズがある
内科	呼吸器内科	大変興味深い分野である
内科	呼吸器内科	自分のやりたかった診療が出来ていること
内科	呼吸器内科	やりがいがある
内科	呼吸器内科	外来診療においても学ぶことが多い
内科	呼吸器内科	様々な疾患が経験でき、得られる知識が多い
内科	呼吸器内科	幅広い疾患・専門領域
内科	呼吸器内科	自分のなりたかった医師像に近いと感じています
内科	呼吸器内科	急性期から慢性期まで幅広く診療でき、診断学に興味があった
内科	腫瘍内科	興味のある疾患に携わっている
内科	腫瘍内科	大変な状況もあるが、やりがいはある
内科	循環器	全てが楽しい
内科	循環器	色々
内科	循環器	面白いしやりがいがある
内科	循環器	患者さんが治る
内科	循環器、血管外科	カテ、手術、急変対応などやりがいがある
内科	循環器内科	救命できる。やりがいがある。
内科	循環器内科	治療後に患者の症状が軽快すること
内科	循環器内科	やりがいがある
内科	循環器内科	やりがいを感じる
内科	循環器内科	やりがいがある
内科	循環器内科	仕事内容にやりがいを感じる
内科	循環器内科	やりがい
内科	循環器内科	働きがい
内科	循環器内科	急性期から慢性期まで診療に携われる。習得手技が多岐にわたる。
内科	循環器内科	やりがい
内科	循環器内科	HT や DL の control に関与することで将来の罹患 risk の低減に繋がっていると感じる点。元々は心臓血管外科で、その後予防医学が重要と考え内科に転科
内科	循環器内科	やりがいを感じる
内科	循環器内科	生命に関わる重要な疾患を扱う魅力的な診療科です
内科	循環器内科	治療効果の達成感
内科	循環器内科	命に係わる急性期治療も率先して行うことができ、また慢性期治療もやりがいがある
内科	循環器内科	検査、治療両面において非常に奥深く、一生続ける価値の

		ある診療科であると思っています。
内科	循環器内科	満足している
内科	循環器内科	幅広い知識が得られる
内科	循環器内科	面白い
内科	循環器内科	楽しい
内科	循環器内科	若い頃は楽しかったが、中年になり家族がいると体力的にも時間的にも辛い。
内科	循環器内科	非常に奥が深い
内科	循環器内科	救急医療と密接な点(生命予後に直結する疾患治療が多い点)
内科	循環器内科	面白い。働き出してから自分の性格に合っていると思ったから
内科	循環器内科	緊急対応能力が付く点、急性期・慢性期診療共にできる点、守備範囲が広い点
内科	循環器内科	患者を救うことができる素晴らしい診療科
内科	循環器内科	実際に診療して、やりがいを感じている
内科	循環器内科	病態がおもしろい
内科	循環器内科	全身管理に強くなれること
内科	消化管内科	診断から治療まで完結できること
内科	消化器内科	上達実感できること、患者さんが多くやりがいを感じられること。
内科	消化器内科	緊急も多いが、やり遂げる価値のあるもの
内科	消化器内科	身につけたスキルで今も働けている
内科	消化器内科	疾患の特徴
内科	消化器内科	やりがいがある
内科	消化器内科	男女別なく能力を発揮でき、専門性が高いこと。
内科	消化器内科	楽しい
内科	消化器内科	診療内容の多様性
内科	消化器内科	やりたいことに近づいている
内科	消化器内科	全身を診ることが出来る。高い専門性がある。
内科	消化器内科	どこでも働ける技術が身についた。
内科	消化器内科	専門性が高い処置を行いつつ、全人的医療を提供できる点
内科	消化器内科	高度な専門性、個人の裁量の大きさ
内科	消化器内科	やりがいがある。内視鏡技術が身につくとキャリアプランが立てやすい。
内科	消化器内科	幅広い疾患の診断と治療、手技を経験できる。
内科	消化器内科	患者さんの症状の改善に直接寄与できる
内科	消化器内科	自分の手技で治療ができる
内科	消化器内科	多くの疾患が対象であり、疾患の各段階に関わることができるためやりがい大きい。
内科	消化器内科	内科自体が幅広く人を診られる科である事に加え、自分で出来る手技がある事に魅力を感じている。
内科	消化器内科	学術的に面白い
内科	消化器内科	内科的診療のみならず、内視鏡などの検査手技もできることにやりがいを感じる。
内科	消化器内科	やりがい
内科	消化器内科	やりがいを感じる
内科	消化器内科	やりがい
内科	消化器内科	腹痛の鑑別、内視鏡検査と内視鏡治療、良性悪性疾患双方を幅広く診療できる点など。内視鏡に興味があったから
内科	消化器内科	多くの検査手技等があり、ほぼ期待通りか。
内科	消化器内科	診断、治療を行うことで患者の一助となれる喜び
内科	消化器内科	検診から侵襲的な治療まで幅広く活動できるところ。
内科	消化器内科	治療の達成感、スキル
内科	消化器内科	手技の専門性を身につけることができた(内視鏡)
内科	消化器内科	特にありません。
内科	消化器内科	何年経っても常にやりがいを感じる事ができる
内科	消化器内科	現時点で楽しいと感じることが多く、自身にあっていると考える。
内科	消化器内科	検査と治療手技
内科	消化器内科	やりがいがある。
内科	消化器内科	診断と内視鏡治療が両方出来る事
内科	消化器内科	やりがいがある

内科	消化器内科	内視鏡手技や処置により患者の救命や診断をより実感できる
内科	消化器内科	技術を身に着けられるため、妊娠、育児中も健診などで生かせる。
内科	消化器内科	多くの患者を見ることができる。
内科	消化器内科	内科でも病気(特に癌)を治すことができるところ
内科	消化器内科	手技
内科	消化器内科	内視鏡検査等、色んな手技があって楽しい 一般的な医師像に近い仕事だったから
内科	消化器内科	実際に手を動かして仕事をする事が多く、その特色が自分に合っているように思う。
内科	消化器内科	日常診療で多い、様々な検査や処置を経験できる
内科	消化器内科	診断だけでなく治療もでき、様々な経験ができて充実していました。
内科	消化器内科	様々な働き方の選択肢があると思う
内科	消化器内科	やりがいがある。疾患の幅が非常に多くて面白い。
内科	消化器内科	手に職が持てることによる医者としての自信。また自分と患者と内視鏡があれば、どんな地域でもある程度の医療が実践できる点が一番の魅力だと思います。
内科	消化器内科	手技が多く、かつ疾患も多彩で、学び続けられる。
内科	消化器内科	専門分野に限らず、全身をだいたい診ることができる
内科	消化器内科、臨床研究支援	自分の知識・技術についてスキルアップを実感する機会が多く、特に自身の技術力向上を以て患者さんに貢献できたと感じることができる点。技術を身につけられたので、一線で高度医療をやるか、健診をやるか、フルタイムかパートタイムか、等働き方の選択の幅も広い。臨床研究支援については、企業就職等も働き方の選択肢にすることができるとも利点と感じている。
内科、麻酔科	消化器内科	手技が多くやりがいがある
内科	神経	興味深い
内科	神経内科	興味のある分野での仕事ができる
内科	神経内科	幅広い疾患を見れる
内科	腎移植	患者さんの人生を長期にわたってサポートできていると感じること
内科	腎臓	頼もしい先輩たち
内科	腎臓	奥が深い。収入が安定
内科	腎臓内科	ワークライフバランスがよく、全身の内科的マネジメントができるところ
内科	腎臓内科	内科全般を広く経験できる。
内科	腎臓内科	内科的に幅広い診療ができること。
内科	腎臓内科	やりがいがある、楽しい
内科	腎臓内科	研修で感じた魅力は働いてからも変わらない。学問そのもののおもしろさ、医局の雰囲気も魅力と感じる。
内科	腎臓内科	疾患の病態生理、検査、診断、治療、救急対応、急性期疾患から慢性期疾患まで、日常的疾患から重症疾患まで、高齢者、身体疾患と精神疾患など、全ての医学、医療、全人的診療に通じ、教育、研究、社会貢献も含めて自己実現と生涯学習を行う医療の中心診療科であるところ。自分が循環器系の診療技術を身につけ従事したいと考えたため
内科	腎臓内科	患者の全体像を見ているところ。全身管理ができるところ
内科	腎臓内科	急性期から慢性期に至るまで、様々な患者と関わりあい、それぞれにあった治療を選んでいくことに魅力を感じた。
内科	腎臓内科	後悔はしていないが、別の診療科での人生もあっても良かったと思う
内科	腎臓内科	雰囲気が良く、臨床、研究、教育の3つの面で充実している。
内科	腎臓内科	学問的に面白く、緊急がそこまで多くないので年をとってからも働ける
内科	腎臓内科	自分に合った業務内容だと感じている
内科	腎臓内科	上司、同僚が素晴らしい医師に恵まれた
内科	腎臓内科	感じている
内科	腎臓内科	感じている
内科	腎臓内科	内科全般を見ることができる、透析・腎生検など専

		門性も生かせるところ。
内科	腎臓内科	全身を診ることができる
内科	腎臓内科	診療科の特性や対応疾患が自分の性質や、やりがいに合致していると感じている。また、働き方にも選択肢が複数ありワークライフバランスもほどよいと感じ、長きに渡って診療に従事できそうだと実感できることに魅力を感じている。
内科	腎臓内科	内科だがオペもするので楽しい
内科	腎臓内科	自分に合っている
内科	腎臓内科	20年たってもわからないことが多く、日々勉強です。その疾患について理解を深めたいと思ったから
内科	腎臓内科	臨床と病理の両方を学べる 疾患の最初から最後まで携わることができる
内科	代謝・内分泌内科	全身を診れる・common disease・患者さんと長くお付き合いできる
内科	糖尿病	予想通り
内科	糖尿病	治らなくて死ぬ病気を相手することは専門性が高く、研究につながる
内科	糖尿病	薬だけでなく生活習慣へのアプローチも重要なので、個々の患者さんのやる気をうまく引き出して改善がみられると嬉しい。また定期通院中に癌など他の疾患の早期発見につながることもあり、早期治療に結び付けられたときには本当に良かったと感じる。
内科	糖尿病・内分泌	やりがいがある
内科	糖尿病・内分泌	慢性疾患の診療は自分に合っていると感じています。
内科	糖尿病・内分泌内科	多職種で患者をサポートするチーム医療をするという点、色々な働き方ができるという点
内科	糖尿病・内分泌内科	体力的な負担が少ない
内科	糖尿病代謝内分泌	基礎的研究、臨床研究、臨床、すべて経験できたこと、患者さんと長く関わることができること、働き続けることができたこと
内科	糖尿病代謝内分泌	ライフワークバランス
内科	糖尿病代謝内分泌内科	やりがいがあり、ライフ・ワークバランスが優れている
内科	糖尿病内科	選んでよかった。
内科	糖尿病内科	仕事が楽しい
内科	糖尿病内科	生活習慣という文脈的なものを採血パラメータを通して、可視化しながら共に治療に進む診療スタイル
内科	糖尿病内科	働き甲斐がある
内科	糖尿病内科	仕事の内容・求められる資質が自身の性格に合っていると感じる。
内科	糖尿病内科	治療による効果が数字として表れること
内科	糖尿病内科	ライフワークバランスがとりやすい
内科	糖尿病内科	やりがいがある
内科	糖尿病内科	人間性が優れた先生が多い
内科	糖尿病内分泌	自分のライフスタイルの変化もすべて患者さんを診ていく糧となること
内科	糖尿病内分泌代謝内科	楽な割に給料が良い
内科	糖尿病内分泌内科	on off がはっきりしている。
内科	糖尿病内分泌内科	急性期と慢性期のバランスが良い。患者一人ひとりに対して、考察する時間を確保でき、達成感も得られる。女性医師が多いため、相談しやすく、同僚の理解も得られやすい。
内科	糖尿病内分泌内科	ワークライフバランスが良い
内科	糖尿病内分泌内科	全人的なアプローチで患者さんとゆっくり向き合えるところ。
内科	糖尿病内分泌内科	科の雰囲気が良い
内科	糖尿病内分泌内科	ライフワークバランスや医局の雰囲気がとてもよく働きやすいと感じています
内科	内分泌	急患対応が比較的少なく子育てとの両立がしやすい
内科	内分泌、糖尿病内科	患者さんと共に歩んでいる感じがとても魅力的でやりがいがあります
内科	内分泌・代謝	人のやさしさ
内科	内分泌・代謝内科	病院から離れても電話連絡で対応できることが多く、重症例が他科より少ないためワークライフバランスが可能。手

		技が少ないため、産休・育休のため休職中は、やろうと思えば勉強ができる。
内科	内分泌・代謝内科	研究・臨床を含め仕事の選択肢が多い。
内科	内分泌・糖尿病内科	基礎から臨床まで様々な働き方に対応できる
内科	内分泌・糖尿病内科	意外に専門性が高い
内科	内分泌・糖尿病内科	患者さんとしっかりコミュニケーションをとりながら診療をすすめていくことに魅力があります。
内科	内分泌代謝	全人的な治療
内科	内分泌代謝	働きやすい
内科	内分泌代謝・糖尿病内科	糖尿病領域においては IoT を活用した治療の拡がりがあり将来性を感じる。内分泌領域に関しては専門性の高さからやりがいを感じる。
内科	内分泌代謝・糖尿病内科	興味を持ち続けて勤務できている
内科	内分泌代謝内科	理論的に考えた正確な病態把握、診断が、患者さんの良好な治療に直結すること
内科	内分泌代謝内科	疾患や病態の奥深さ。
内科	内分泌代謝内科	臨床推論の力を活かすことが出来る
内科	内分泌代謝内科	やりがいと使命感を感じる
内科	内分泌内科	患者さん自身を診療できることが魅力。研究が面白かったから
内科	内分泌内科	臨床業務にも興味があるが、入局前に聞いた、生理学と生化学にまたがる研究が出来ると聞いたことが実際にそうであったこと。
内科	脳神経内科	患者さんに寄り添う想像していた通りの診療科であった。
内科	脳神経内科	やりがいがある
内科	脳神経内科	常に新しい学びがある
内科	脳神経内科	飽きない、興味が尽きない
内科	脳神経内科	常に興味をもって診療をできる
内科	脳神経内科	診療内容が面白い
内科	脳神経内科	奥が深く飽きない
内科	脳神経内科	選んだ分野の奥深さ
内科	脳神経内科	60歳代まで続けても飽きることがないだろうと感じるほど奥深い
内科	脳神経内科	やりがいがある
内科	脳神経内科	比較的働く時間が限定されない。
内科	脳神経内科	自分の科の奥深さと必要性に魅力を感じています。
内科	脳神経内科	高齢化社会でニーズがある
内科	脳神経内科	急性期から慢性期、脳血管障害から神経筋疾患まで幅広く診療できる
内科	脳神経内科	科学的興味は満たせる分野だと思う
内科	脳神経内科	症候が多岐にわたり飽きることがない
内科	脳神経内科	働きがいがある
内科	神経内科	必要性に満ちており、将来性に富んでいると感じています。
内科	臨床遺伝学、医学教育学	満足している
内科	膠原病リウマチ内科	学術的・教育的な面白さ、診療のやりがい
内科	膠原病リウマチ内科	大変やりがいのある診療科です
内科	膠原病内科	診断や治療が難しい疾患が診療対象となるが、やりがいがある。
内科	膠原病内科	専門分野②においては、多様な疾患を診ることができて知的好奇心を満たすことが最大の魅力と感じている。また同専門分野では新薬が多く市販された時期に重なり、それらを用いた治療法の確立等、患者にとって有益な医療の進歩が認められていることも魅力的です。
内科	膠原病内科	関節リウマチなど、実際に症状が改善したことを眼前で感じることができる。緊急の呼び出しが比較的少ないこと。幅広い内科診療を経験できること。
内科		生にあった。初期研修で興味を持ったから
内科		患者の健康に貢献
内科		言語化は難しいのですが、考えるのを楽しめます。
内科		自由がきく
内科		薬剤だけに頼るのではなく、診療を通して生活習慣や服薬アドヒアランスの改善に助力できるところが好き。業務の分

		担により、育児等との両立も可能。義務年限内の勤務先ポストがほぼ内科しかなかったから。
内科		学生の時の知識が多く生かされる
内科		常に発見がある
内科		多様な疾患の診療が可能だった
内科		診療範囲が幅広く、多様な病態について研鑽を積み患者さんに還元できること
内科		幅広い視野で働くことにやりがいを感じる
内科		やりがい
内科		手技が少なく、身体的に楽
内科		やりがいがある
内科		診断までのプロセス
内科		多科と比較するとプライベートと仕事を両立しやすいと感じる。出産後やライフイベント後も働き方が変わりづらい。
内科		充実している
内科	リウマチ・膠原病科	やりがい
内科	リウマチ・膠原病科	やりがい
内科	脳神経内科	私に合っていた
内科	脳神経内科	じっくりと考えることができる
内科	脳神経内科	学問としての幅広さ
内科、外科		
脳神経外科	てんかん外科	やりがいと希少価値
脳神経外科	神経救急	手術が楽しい
脳神経外科	脳血管障害	やりがい
脳神経外科	脳神経外科	興味のあることができる。
脳神経外科	脳神経外科	命を救うこと。難治な病気に立ち向かうこと。
脳神経外科		人の死生観に寄り添うことができる事
脳神経外科		重篤な神経症状の人が回復してリハビリ後、社会復帰される姿に遣り甲斐を感じる。
脳神経外科		楽しくて、やりがいがある。興味が尽きない。
脳神経外科		何年経っても学ぶことが多く面白い
脳神経外科		学問の奥深さ、手術の面白さ
脳神経外科		チーム医療が必須。
脳神経外科		日々充実
脳神経外科		ICTを診療に生かせること
泌尿器科		
泌尿器科		医師にはサイエンスが必要であることを実感した。優れた恩師に出会ったから
泌尿器科		
泌尿器科		多岐にわたる疾患がみれる、手術ができる
泌尿器科	移植外科	おもった通り、後悔していない
泌尿器科	腫瘍	診断から手術まで完結している
泌尿器科	女性泌尿器科	予想していた通りで、自身の能力を十分に社会貢献に用いてると実感している
泌尿器科	小児泌尿器科	死別する患者さんが基本的にいないこと。患児の成長に向き合っていける事。
泌尿器科	腎不全治療	ニーズはあります
泌尿器科		やりがいがある。
泌尿器科		QOLに関わる診療では、患者さんの笑顔が見れる
泌尿器科		幅広い診療内容があり、専攻後も専門性をさらに高められる
泌尿器科		奥深く、面白い。
泌尿器科		様々な領域を診療することができる。手術や化学療法など。
泌尿器科		将来性が高い
皮膚科		女医が多いからワークライフプランの参考になる。緊急呼び出しが少ない
皮膚科	皮膚一般	皮膚疾患やライフスタイル共に楽しいです
皮膚科	皮膚科	外来診療の楽しさ
皮膚科	免疫アレルギー	生涯学習ができる環境で毎日が楽しい。自分がアトピー性皮膚炎だったから
皮膚科	膠原病	患者さんの年齢層や診療内容が幅広くて飽きることがな

		い。
皮膚科		内科的、外科的なことができ、やりがいがある。
皮膚科		自分には合っていた
皮膚科		年数を重ねても興味ある事が絶えず、深さと面白さを感じます
皮膚科		自分の性格傾向と合っていて、やりがいを感じる
皮膚科		研究、臨床共に奥深く、探求し甲斐がある
皮膚科		良かったと思います
皮膚科		仕事と家庭の両立ができている
皮膚科		皮膚の改善が患者さんにも見た目でわかること。日中忙しくとも夜は呼び出しがほぼないこと。新しい発見や治療法の開発が盛んで、勉強すべきことがたくさんあり、飽きないこと。
皮膚科		診療や治療が多岐に渡りやりがいがある
皮膚科		夜間帯の急患が少なく、昼間の外来患者が多いです。個人的に、救急対応や夜間対応などバタバタした状況が苦手なため、働きやすいです。
皮膚科		診断から治療まで、様々な年代の患者さんを診察できる
皮膚科		働き甲斐がある
皮膚科		働きやすい
皮膚科		働きやすい、やりがいがあると感じています。
皮膚科		人が死にくいのでメンタルが比較的楽。死ぬ時は死ぬ
皮膚科		病理を自分で見ることができ、手術ができる点が良かった
皮膚科		症状が目に見えるものですので、軽快時に大変感謝され、やりがいを感じています。
皮膚科		やりたかった皮膚外科を専門とし、それが生きがいとなっている、
皮膚科		自分自身や家族にも還元できる
皮膚科		それほど魅力を感じていない
皮膚科		病状好転(皮疹の改善等)を患者と直接共有できる。ワークライフバランスが比較的良い。
皮膚科		教育体制がしっかりしていた
皮膚科		自分の興味に合っている。
皮膚科		とても幅広く奥深い
皮膚科		やりがい
皮膚科		内科、外科様々な側面があり、老若男女患者の多様性もある点
皮膚科		臨床と研究が両方できる
皮膚科		皮膚科なので、良くなった経過を患者さん自身に目でみて分かってもらえること。
皮膚科		治るのが目でみて実際にわかり、患者と共有できる。
皮膚科		雰囲気が良い
皮膚科		その疾患のために社会に適応できなくなった患者さんを、疾患を治療するだけでなく社会に適応させ人生を取り戻すところまで後押しできるところ
皮膚科		医学、サイエンスの魅力を感じている。様々な領域を包括している科だから
皮膚科		診療、研究の両方ができる。
皮膚科		専門性の高さ、技術を身につけることができる
皮膚科		専門性が高いところ
皮膚科		やり甲斐がある。内科系・外科系・様々な領域の医療を体験、実践出来る
病理	外科病理	どの科もやりがいがある
病理		
病理	実験病理学	自分の興味の対象に時間と労力を集中できる。
病理		やりがいがある
病理診断科		やりがいを感じる。ワークライフバランスを取りやすい。基礎研究で行き詰まったときに指導医から勧められたから
病理診断科		時間の調節がある程度可能。周囲の状況から
病理診断科		やりがいとワークライフのバランスが良い
病理診断科		診断を出すことの楽しさと責任
病理診断科		学ぶことが多くやりがいがある。

病理診断科		本質が見えること
病理診断科		飽くなき探求心を以てしても、深淵はさらに深い。
法医学		経験を積みれば積むほど面白い
法医学		社会や遺族へ情報を還元できる
法医学		社会医学の一つとして、社会全体に貢献しているという自負。県内で1名という誇り。大きな事件における鑑定という責任感。父が解剖学者。父と同様、患者を直接診ることのない科を希望したため。
放射線科	IVR	やりがいがある
放射線科	画像診断	様々な診療科との係わり、コンサルトを受ける点。
放射線科	画像診断	働きやすさと面白さ、やりがい
放射線科	画像診断 IVR	画像診断が患者さんの治療において役だった時
放射線科	核医学	専門家が少ない分野であり、自分が直接に役立つことができると感じる。
放射線科	泌尿器画像診断	領域が広いので、興味があるものがみつけやすい
放射線科	放射線治療	根治的な治療から緩和まで幅広く携わることができる。
放射線科	放射線治療	考えていた通りやりがいとワークライフバランスが両立出来ている
放射線科	放射線治療	自分にあった働きがいのある仕事と思っています。
放射線科	放射線治療	夜間緊急の呼び出しが少ない
放射線科	放射線治療科	研究テーマも豊富で医学発展に携わっていると感じる
放射線科	放射線治療科	技術の進歩と治療成績向上
放射線科	放射線腫瘍科	プライベートと仕事が両方しやすい
放射線科	放射線診断	日常臨床から常に学ぶことがある。
放射線科	放射線診断科	育児との両立がしやすいと感じています。
放射線科	放射線診断科	やりがいがあり、常に進歩している領域なので、あきることがない
放射線科	放射線診断科	仕事と家庭の両立が可能。専門性が高い。
放射線科		効率よく興味のあることを勉強できる
放射線科		自由な時間を持てる
放射線科		診断・IVRで患者の予後、QOLに寄与できる
放射線科		専門性の高さ
放射線科		医局の雰囲気良く、個々の事情に配慮してくれる
放射線科		時間がある程度フレックスな点、やりがいがある点
放射線科		on、offがはっきりしている
放射線科		ライフスタイルに合わせた働き方ができる
麻酔科	集中治療	卒後に多くの診療科の医師と仕事ができる。少し苦手そうな分野で、避けて通れない気持ちがあった
麻酔科		
麻酔科		
麻酔科	ペインクリニック 小児麻酔	オンとオフがはっきりしている
麻酔科	緩和ケア	全身管理に魅力を感じます
麻酔科	手術麻酔	1人で仕事ができるところ。
麻酔科	手術麻酔	医療安全が重要である点、薬剤と技術が新しくなる点
麻酔科	集中治療	若いうちから診療に対しての自己決定権が強い、オフコールがしっかりしている
麻酔科	集中治療科	自分でやったことの結果がすぐわかる点と人の命を預かっていると強く感じる点。
麻酔科	小児	仕事と家庭の両立がやりやすい
麻酔科		楽しい
麻酔科		期待通り
麻酔科		オンオフがはっきりしている
麻酔科		奥深い サブスペシャリティ分野も広い
麻酔科		忙しく充実していますが、魅力は感じていません。
麻酔科		自分の興味や性格とあっていて面白い。研究しやすい。初期研修で自分の興味と合うとわかった、実際本当に面白いです。
麻酔科		オンオフがはっきりしている。
麻酔科		予想通りだった
麻酔科		はい
麻酔科		自分に合っている
麻酔科		人の生死に直結した診療に携われる。

麻酔科		そこそこのやりがい
麻酔科		専門性の高さ、医療への貢献度、オンオフの切り替えやすさ
麻酔科		専門性の高さ、医療安全への貢献
麻酔科		最初は、手技が多く楽しかった
麻酔科		オンオフがはっきりしていること。子育てとの両立がしやすいこと。
麻酔科		やりがいがある
麻酔科		メリハリの良さ、やりがい
麻酔科		時間を区切った勤務で交代してもらえる。
麻酔科		子育てしながらも働き続けることができ、また、同じ境遇の仲間も多く、仕事のこと以外も相談できるところに魅力を感じています。
麻酔科		自分のペースで働きやすい
麻酔科		仕事とプライベートが分けやすく働きやすい
麻酔科		時間軸の異なる複数種類の仕事内容があってバラエティーがある。当時麻酔科に入局すると仮スーパーローテを体験できたから
麻酔科		ワルクナイ
麻酔科		仕事のやりがい
麻酔科		適職だと思った
麻酔科		全身管理が出来る点。まず全身管理能力を付けてから、他科で研鑽を積もうと思った。
麻酔科		学問的な面白み
麻酔科		やりがい
麻酔科		自分の専門を様々な分野の治療に応用できるという点に魅力を感じている
麻酔科		命と隣り合わせ
麻酔科		全身管理を行う魅力がある・休職後も復帰しやすかった・様々なサブスペシャリティがあり自分に合ったものを選択出来る
麻酔科	ICU	
薬理学		薬剤師、製薬会社の人たち、看護師、基礎研究者など他分野の人との交流ができ、視野が広がったこと。
リハビリ		患者が活動で来るようになる、自宅に帰るようになるのを直接見れることはやりがいに感じる
リハビリテーション科	無	携わる分野が非常に広くやりがいを感じる。
臨床検査科	リウマチ科	子育てと両立しやすい
臨床検査専門医	循環器内科	やりがいがある
無記名		

付録表3 出身地および勤務地

出身大学のある都道府県	人数	勤務地のある都道府県	人数
愛知県	4	愛媛県	1
青森県	2	大分県	212
秋田県	7	大阪府	9
石川県	6	神奈川県	9
茨城県	5	京都府	47
岩手県	1	熊本県	1
愛媛県	5	高知県	20
大分県	147	佐賀県	2
大阪府	11	滋賀県	1
岡山県	11	静岡県	77
沖縄県	4	島根県	1
香川県	2	千葉県	14
鹿児島県	9	東京都	75
神奈川県	12	栃木県	40
京都府	39	鳥取県	17
熊本県	15	富山県	8
群馬県	5	長崎県	66
高知県	18	兵庫県	28
埼玉県	8	広島県	107
佐賀県	13	福岡県	38
滋賀県	5	北海道	46
静岡県	57	宮崎県	5
島根県	8		
千葉県	4		
東京都	77		
徳島県	5		
栃木県	37		
鳥取県	19		
富山県	10		
長崎県	49		
長野県	3		
奈良県	2		
兵庫県	16		
広島県	70		
福井県	3		
福岡県	50		
福島県	2		
北海道	42		
三重県	2		
宮城県	4		
宮崎県	15		
山形県	4		
山口県	13		
和歌山県	2		
海外	1		
計	824	計	824

付録表 4 配偶者の育児への満足度

女性	男性
理由は、私が不在の時に子供の面倒を見てくれたけど、学校や習い事など教育に関することはすべて私まかせだったから。	まずまず
すでに成人しているため回答なし	専業主婦だから
子どものことを愛していることを子どもたちに伝えてくれるから。	よくやっている
我々の子供が小さい頃は、基本的には育児は母親が95%でした。そういう時代でした。休みの日に美容院に行くのも大急ぎで帰りました。イクメンなんて全く考えませんでした。	こちらは平日週1回(研究日)ぐらいしか送迎や家事を行えないが、その分残りを全部やってもらえている
分担してまあまあやってくれた	あまり対応できていないから
時間が短い中でできることをやってくれている、自分とは違う視点でかかわってくれる、不足はもう少し主体的にしてくれたり子どものことを一緒に考え話し合う時間が欲しい	理由は専業主婦として育児に専念してもらってるから。
私が当直の時などに、子供の面倒を見てくれた。夜間に呼び出されても、嫌な顔をせず、送り出してくれた	育児のほとんどを配偶者がやってくれたので
離乳食などは母親任せ、当直復帰もしたいが夜の育児を任せることができない	理由は私の不在でもしっかりしてくれているため
ながらで何かしながら、例えばTVみながら子供の相手をするので。	満足です。
ほぼ自分でやっているが困った時頼めば協力が得られる	自分が仕事に忙しい中、子育てに奮闘してくれている
遠方(関東)に単身赴任しているため、あまり戦力にならない。	専業主婦として支えてくれた。
平日の家事はほぼ配偶者。休日は子供が配偶者と遊びたいので、平日行き届いていない家事をする時間や自分の時間が比較的確保できる。	理由は家庭での時間を確保できない自分に代わって育児・家事をこなしてくれている。その質を評価できるほど自分は参加できていないため、評価する資格はないと思っている。
お互い医者であり、時間の制約もあるなかで臨床も育児もしっかりやってくれていること。お互いに大学医局に所属しているため融通が効かないことが多い。	全く不満がない
育児参加が少ない、考え方の違い	理由は、専業主婦(子供がまだ1歳のため休職中)であり、家庭の仕事をとてもよくやってくれている。
小言を言うばかりでありあまり子どもの世話をしない	子供に愛情を注いでます
配偶者は40歳男性ですが、自分の生育環境に基づいた家事育児に対するジェンダー観が丸見えで、「子育ては母の仕事」「母が精神的に安定していることが子の成長に必須」と信じ込んでいるために手を出してこないことが不満です。こちらが具体的な指示をしたことについては実行してくれます。ただ、家族でのお出かけや食事などは、配偶者のこだわりが強くできません。	一生懸命やっているが、時に感情的になりすぎる。
私が仕事の時は保育園のお迎えor送りだけでなく食事や家事もしてくれている	不在が多い中しっかりと子育てをしてくれている
自分の負担がだいぶ大きい	問題なし
不十分ではあるが、一般男性平均よりは関わってくれていると思う	特に問題ないから
夫も医師であり、週の半分は当直に出ているが、家にいる日は家事や育児など協力してくれるから。	子供をよく見てくれる。家事は自分も負担している。
家事や子供の準備などしてくれることも多いが、参観日等の行事や病院受診等休みを取らなくてはならない時に融通がきかない。	理由は家族のことを第一に考えてくれている
理由はほぼほぼ母親の代わりにしてくれる。ただし、月～金は出張で不在のため平日の育児は母親が担うため-20点。	価値観の共有
とても協力的です。	不満はない
マイナス10点は口出ししすぎる	自分のできていないところをカバーしてくれてい

	るため 特に不満なし
家事も育児もよく協力してくれますが、してあげているという意識が鼻につきます。子供を見ているといっても、目を離していることが多く、それは見ているとは言わないと感じることも度々あります。	
育児、家事含めほぼ何でもできる	大変な中良くやってくれている
子供とよく会話をしている	特になし
お互い不満はあるでしょうから 100 点にはできませんでした。	理由は頑張ってもらっていて特に不満に感じることはないから
貢献度だけなら満点だが、子供の叱り方について夫婦で意見が合わないことがある。	仕事と両立させて精一杯やってくれている
ほとんどワンオペ育児だったので。	単身赴任中で一手に行ってもらっているため
私よりもよく育児をしている。子供のことを考えている。	自分があまりできていないから
こちらはすべて終わらせて寝かしつけてからゆっくりしたいが、スマホをみるのが先で、次の行動になかなかいかないことがある。	ものを与えすぎる
専業主夫で家事育児全て中心に行ってくれている。	理由は、子供教育方針についてお互いが共有できている
第一子よりは協力しているが子供ではなく自分の都合を優先	配偶者が主婦でほぼ任せてますので
期待していない。	ほぼ全て任せている
協力しようという姿勢はわかるが時間がない	衣食をしっかり担当してくれている一方、教育については意見の相違から混乱することが多い
家事や育児の分担をおこなっており、土日の仕事が入るときはお互いに不在の日をずらしています。	感覚的なもの
夫が同業遠方出勤のため、ほぼワンオペ育児をしているため。家にいるときは育児を一通りしてくれるものの、休日はゆっくり寝ていて結局自分が育児をしており、仕事や勉強なども出来ない状況が続いている。子供や自分の体調不良の際もワンオペであった。	そこそこ頑張ってくれている
家事育児よくする	安心
単身赴任中だから	(自分自身が育児に大きく参加できなかった反省がある)
方針決定には相談役として重要であるが、毎日の子供関連の対応は自分が中心であるため	忙しくなかなかふれあえない
家にいる時間は育児に参加してくれている	専業主婦として立派に子育てを頑張ってくれている、感謝しかない
なるべく早くに帰宅するよう努力してくれており、帰宅後はほとんどの育児と家事を代わってくれて、私に休む時間をくれる。休日も交代で出勤したり、一人で勉強する時間を確保してくれる。相談したり話す時間もあり、特に不満はない。	おおむね満足だが進学の方向性について一致していない点がありそう
同じ目線で育児をしています。	自分は全く役に立っていませんので
できる限りやってくれていると思うので	自分がほとんど育児に参加できないため
配偶者も医師であり出勤、帰宅が遅く平日はほぼワンオペです。いる時は協力してくれる様になったので、前よりはいいです。	ほぼ完璧にこなしてくれている
特に不満はない	妻も医師であるが、育児休暇を取得して見てくれている。
家事のやり方が違う点が気になることあり...その分の5点です。いつも助かっています。	非常に良く面倒をみてくれている
育児に関しては70点相当ですが、仕事への理解があり、医師としての自分を尊重してくれるので配偶者としては100点満点です。	まあ頑張ってくれた
あまり協力的ではない	問題ないので
頑張ってくれるが、育児に関わる時間が短い	共働きで育児を中心にこなしてくれているから
評価不能。配偶者とは最初から別居していたため	理由は自分が忙しいところをカバーしてくれている
必要最低限はしているという感じ。	妻の固定観念を子に押し付けるところがあるのがマイナス20点

夫婦とも働いていて互いの仕事を尊重し週末は一緒に子供の面倒を見ているので。平日は同居の両親が担当。	子供のことを最優先に考えてくれているから
子供と関わる時間は少なめに感じます。	そもそも点数をつけることが烏滸がましい
通常仕事はセーブしてくれていませんが、子供を可愛がってくれているから。	家内に任せっきりだった
同じくらいこなしているため	生活が安定する
時間がない中では積極的にしてくれているので	全部まかせている
かろうじて合格	自分が0点に近い
保育園の送迎、学童の送迎、習い事の送迎、休日に遊ぶ、など、できる限りやってくれている	理由は意見できる立場にない
私の復帰にあたり、夫が育休をとって家庭に入ってくれた。	お互い忙しいので
理由は、パパ一人でもちゃんと子守りできるから（ごはんの準備、入浴なども）。	仕事も家事も育児も可能な限りこなしている
指示しないと動かないから。患者対応では動けるのにわが子の対応に指示待ちなのはおかしい。	常に子供の面倒を見てくれて家庭が楽しくなるように考えてくれるため
夫婦共、医師で共働きのため、仕事を同じようにする分、家事・育児も平等にしようと訴え続けたところ、実践するようになった。ただ、まだ仕事が多忙のため、どうしても私に育児の負担が偏りがちです。	自分が育児のために時間を作るのが難しいため育児をしてきている点には感謝していますが、育児の方針や考え方が違う部分もあります。自分が育児に専念することはできないため意見が異なる部分は我慢して妻のやりかたで育児してもらっています。
非医師の夫は、出張で不在の時を除き料理以外の全ての家事を担ってくれているため大変助かっている。育児もおむつ替えが終了した4歳頃からは保育園の送迎等積極的に関わっている。	理由は3人も子供がいて、家事をほぼまかせっきりにしてしまっている
ほぼ自分と同じくらいのことをやってくれている。お母さんじゃないとできないのは出産だけです。それ以外はお父さんでもできます。	文句が言える立場にない
同級生で仕事が忙しく、育児に対する主体性が低いから。	仕事ばかりであり子どもと遊べないですが、妻が子どもに、『父親を誇りに思うように』と声掛けしてくれているので、子どもとも仲良くできています
医療者ではなく、一般的な以上に手伝ってはくれるが、約束事で決められた以上のことはイベントが起こっても、手伝ってくれない	私が何もしていないから
子供が増えるにつれ、一人での育児に限界を感じ、配偶者にも積極的に参加してもらおうようになって、お互いの育児に対する理解が深まったため、しっかりやってくれるが自分がしんどいときはしてくれない時もある	浪人せずに大学入学を果たしたので結果論だが育児は成功したと思う
理由は家事も育児も積極的に手伝ってくれてほとんど不満はないが、テレビをみせたり Youtube 見せたりやってほしくないことをすると不満。	特に不満はない
夫は外科系の医師だが、育児と私の大学院進学、研究、仕事を「当然のこと」としてサポートしてくれた。夫自身もキャリアを何か諦めたことはなく家族全体の最適解を考えフルタイムでキャリアを積んできた。今も私の方が帰宅が遅い子どものお弁当当め食事は夫が作ってくれる。(妻がやったら当たり前で夫がやったら褒められるというジェンダー・バイアスには閉口するが、私からの点数は満点)	中間管理職の負担が多いことに対する対策が必要とおもわれる。裁量でやりくりするしかない。次世代との責任の分散も考慮される
特にいなくても成り立つ	理由は頑張ってくれてる
育児に比較的協力的だが家事の分担がフェアではない	ほぼ満足しています
全てしてくれるから	子供が大きな問題なく成長しているから
最低限のことはしてくれていると思います。	ほとんどしてもらいました
精神面を含め全面的に協力してくれましたが、料理や掃除などの部分は難しい状況でした。	共働きに関わらず頑張ってくれてます
子供優先で全て考えてくれる	長女、次女とも元気に大学を卒業し、就職できた
	配偶者が育児に誠実に向き合っていることは100点でありがたいと思います

普通に育児や家事を分担	一生懸命に育児してくれている
関与が少ない	働きながら十分できていたと思うから
理由はほとんど育児に携わらないから。忙しいらしい。	頑張っているから
理由は意外と帰宅が早くて助かるが、帰ってきてからも疲れたと言って何もしないことも多い。子供の発熱や行事の際に仕事を休んでくれない。	育児に対する情報を仕入れて、積極的に活動しているから
主人が育児の8割を担ってくれています	ほぼ満足
理由は私が当直などでいなくてもギリギリなんとかやってくれているから。つまり私ほどうまくなくても、なんでもできる	家庭にいて育児をきちんとしてくれた
自ら手伝いもしないが邪魔もしないから。一応頼めば動いてくれる	理由は、なんでもやってくれるから
家事はほぼ半々	理由は当方の多忙な仕事内容に理解をしてくれ、また育児も見事にこなしている
理由は出張に出ており不在だった	子育てに熱心
平日休みを取れるので学校行事はお願いしやすいですが、日々帰宅が遅いので、家事はほぼできないからです。	そのようなものです
今の職場が忙しすぎる、自宅での父、夫としては完璧	教育など決定にママ友の意見に振られることがある点が心配
他の家庭よりは協力的だと思うが、まだまだお手伝い感覚が抜けていない気がするから。	ある程度両立できている
自分と同等以上に家事育児ができる。	理由は、よく頑張ってくれているから
子どももそこそこ大きくなり、育児にかかる労力の絶対量が減った。食事の支度はできる方ができる範囲で手を抜いてやる。その共通認識で動くことができている。	妻は共働きで現在は小さな老人病院の院長にもなったので、お互いに協力して頑張ってきたと思います
家事をしっかりとしてくれました	減点することがないから
理由:教育方針について相談ができる。土日は送迎などはかなり分担している。	自分はほとんど子供が小さい時に会えなかったので文句のいいようがない
なんでもできる	ほとんどすべての育児をやってもらっている
主に自分が仕事をセーブして子供とのことをやっているが、自分で望んでやっていることなので概ね満足。	平均以上にやってくれていると思うが教育がやや疎かかも知れません
あくまでも主体は私で、お手伝いの域を出ないと感じる。	共働きなので時間に限りがある
点数を低くつけたとしても、現状は変わりませんので、今の状態がベストと思うようにしています。育児については小さいころからよくやってくれている	育児にかけられる時間が少ない
理由:夫は積極的に育児していると感じるからです。欲を言えば、朝食や着替えなどで最も忙しい朝の時間帯に、まだ自宅にいてほしいとは思いますが。やる気はあるが勤務地が遠く医師と違って裁量が少ないため帰宅も遅い	一生懸命やってくれるから
自分が出張時には面倒を見てくれることがあるから	医師として働きながら、子供の事を非常によく観察し、子供のために自分の時間を費やして子育てをしてくれていると感じる
気分次第が-20点	家事と仕事と忙しい中で学校の仕事や習い事なども自分が動けないときはすべてカバーしてくれており申し分なく子供たちものびのび育っている
大変子煩悩です	平日にもう少しこどもと過ごす時間があればと思う
育児参加はたまの休みに子供と遊ぶ程度だが、仕事の忙しさを理解しているためあまり不満はない。	概ね家事、育児をこなしてくれているので感謝している。自分と微妙に方針が異なる事があるので-20点としたが、そうはいってもほぼほぼ家内任せなので任せるしかない
お互いに得意とする家事を分担しているため。	全てお任せ
全般的に概ね協力的	大きな病気をせずに育ててくれた
協力的であるから。	理由は子供の教育をしっかり行っているから
理由は子供の学校などの行事には出席できない、病欠時に休むのは夫のほうが少ないなど	文句ない
育児に積極的に協力いただけるから	理由は心身ともに健全に成長させることができたから
	理由は、不足ないから
	多くの負担をかけている

家にいる間は子どもと関わっているが、「(仕事や自分のやりたい事に支障をきたさない程度の)できる範囲内で」という関わり方をしていると感じるから。	自分はほとんど何もしていないから
まだまだ平等ではない。夫の勤務環境が悪い。	両立してできている
以前は休日は自分の趣味を優先していたため80点だったが、現在は、私が入院中のため、仕事(医師)をしながら上の子の保育園の送迎、家事をしてくれているため。	理由:お互いの家事育児仕事の配分を鑑みると、満足しているものの、もう少し改善の余地はありと考えます
家にいる間は大活躍で良くしてくれるので200点だが、仕事で家にいないことが多いため。	理由は仕事への理解が少ない
積極的に育児に参加してほしい。	素晴らしい
忙しく接する時間が短い。余裕がない	専業主婦だが、しっかりと家のことをやってもらっているから
ほぼ1人で育児しているが、私ができない時にはサポートしてくれるため。	もう少し学会活動が正直したい
理由は自分が忙しいと感情的に叱るから	私よりも大分負担頂いている
ルーティンは余裕のある時のみやっていますが、いざというときには頼りにならず、むしろこちらの仕事を制限するような言動が多々あったため)	自分が仕事、研究で十分な時間がとれない中、頑張ってもらっている
実働では足りないが、経済的には十分参加できている。	介入の度合い
離婚しているので、回答不能	お互い勤務医ですが、協力し合って家事を行っていているため、配偶者には非常に感謝しています
配偶者の勤務が忙し過ぎて、子供と触れ合う時間が取れていない	自分がサポートできていないが、育児をしっかりしてくれているため
当初はあまり協力が得られなかったため30点。その後、数々の喧嘩を経て徐々に意識の変化がみられ及第点。ただし「みえない家事」は基本自分がやっている。	理由は、パート業務であり、ほぼ育児に専念してくれているから
育児家事ほぼ私がしてるため。	ほぼ全てを任せていた
休日は育児のメインを担ってくれるが、平日は帰宅が遅いため	できることはすべてやってくれていると思うから
私の方が送り迎えや行事参加の頻度が多いから。土日はほぼワンオペ。	共働きのなかでできる限界までよくやっている
朝の保育園の送りと勉強をみたりしてもらっており、助かっているから。帰宅時間が遅いため寝かしつけまではワンオペなのでマイナス20点。	よくやっていると思います
協力的で理解がある。	育児に関しかなりの部分を任せており、私は仕事に集中できるから
PTAなど大変なのによくやってくれています	仕事が忙しく育児に時間が取れない
理由は、半分以上育児負担を担ってくれているから	文句ないです
全面的にサポートしてくれる	自分ができていないことを行ってくれているため
子供の世話はすべて自分。家事もすべて自分。	一緒にいる時間が足りない
今はいませんが、配偶者がいたときは20点/100点くらいです	理由は、専業主婦として家事育児をしっかりしてくれているから
積極的に家事や教育に参加している。	収入が医師と比較して少なく妻の復職には慎重にならざるを得ない
私より忙しいとは思いますが、自宅にいる時間は積極的にかかわってくれる	仕事中に育児を気にしなくて良い
教育に熱心。家事も分担	ストイック過ぎるくらい
忙しい中手伝ってくれ、量は少ないが、助かっている。	専業主婦
困った時は助けてくれるが、自分のワンオペ育児になっている	共働きながら育児、仕事とも頑張っている
家にいるときは子供の面倒をしっかりみてくれているから。	育児に対する努力は評価しているが、育児の優先順位がおかしい時がある
おおむねいいができないことがあるから	塾や習い事などよく面倒をみてくれている
帰宅が早いときは入浴とかしてくれる	不満なし
料理を担当してくれる	妊娠中であり、つわりがある中でも頑張っている
単身赴任で月一だけ帰宅	非常に熱心だから
理由は単身赴任中で離れていることをいいことに	理由なし

子どもの行事や持ち物、習い事、勉強の進捗状況を把握しないから。私の休日出勤の間に宿題をさせておくようお願いするが、させっぱなしで子供に間違いのフィードバックをしないから、子どもを見ておくように頼んでも自分は携帯ゲームに忙しく子どもが危ない目に遭うことがあるから。(宿題は丸つけが必要なこと、子どもをみるとは同じ家の中に居ておくだけではない、と言わないわけではなく、何度も言っています。)	
理由は・・・料理以外の家事はこなしてくれるので満足。しかし、料理も挑戦してほしい!	私が育児をあまり手伝えないのに必死でワンオペ育児をしてくれて感謝しかないです
理由は、家で会っているときは仕事はあまりせず、愛情を注いでいるから。	共働きですが、家事の割合が平等ではないため
仕事で忙しいので	朝から晩まで子供のことを第一に考えて行動してくれている
男女は平等ではないなと思いつつも、助け合っているとと思う。	仕事をしながら育児をほぼ一人でこなしている
名もなき家事を含めて、ほぼすべての家事は私が行った。	単身赴任の期間が多い中、仕事をしながら子育てを立派にこなしている
子供の世話はしてくれる。家事はしない。	自分があまりかかわれないため
理由は家事育児はほぼすべて自分だから。数時間なら預けることができるので、その点は良い。	自身が帰宅時間が遅くなるのが平日はほぼ毎日であるにも関わらず 2 人の子供の世話を行っており、子供たちも笑顔で元気よく育っているため。
子供の相手はするが、家事全般はしないから	配偶者もフルタイム勤務しており、諸々必要に応じてお互いが育児参加している
点数化出来るものではありません。	言うことなし
	妻は不要範囲内勤務だが就労も育児も十分やってもらっている
	理由は、これ以上の負担はかけられないほど労力を割いてもらっているから
	理由なし
	共働きだが必要な育児はやってくれている
	平日日中は保育園に預けているが、自宅で学習指導をしてくれている
	理由は自分が仕事で家庭にいないためすべて任せているから
	子育て方法に意見の相違がある点がマイナス
	育児参加が必要
	自分はほとんど関与できていないので何も言えません
	全て頼り切っているから
	子が生きているから
	任せきりなので
	理由は全面的にしてくれている
	自分自身はあまり貢献できていないので、配偶者には感謝しか無い
	行事等参加機会が少なかった
	しっかり十分に行っており特に不満は無い
	お互い家事も育児も協力分担している
	子供の送り迎えなど時間的に制約のある面を全て行ってくれているから
	何のトラブルもなく順調に育っているから
	配偶者は専業主婦でした
	可能な限り育児に努めている
	よくやっている
	まずまず
	あまり育児、家事をしない、働いている割に収入が少ない、資産運用の考え方が古臭い
	理由：満足しているから。
	まだ育児を始めたばかりですが、いまのところ不満はありません
	ほぼ完璧
	教育への理解が少しないことで 10 点減点

	決められた規則を守ってくれる
	不満はない
	申し分ない
	構ってくれない
	しっかり生活できているから
	子供が元気でいつも笑顔
	全て任せきりいい子に育った
	子供が育った
	言うことなし
	すくすく育っている
	全て任せている
	子育て、家事に努力してくれる
	全て妻が育てた
	おおむねいいが、自分ができないことをこっちに ふるが、こっちが介入すると嫌がる
	現状問題なし
	自分が十分に関わっていない中で、本当に頑張っ ている
	専業主婦だから
	男女平等の考えの人だったのでできることはなん でもした
	ほとんど任せきりだったから
	大きな問題がない
	私自身の関与不足を反省している
	不満はない
	子供が子供を見ている感じだから
	ほとんどすべてしてくれている
	共働きでお互いできることを精一杯していると思 います
	しばらくの間、離職の上育児をしてもらったため 理由は自分だけで出来ないことをしてくれてい る、仕事をできるのも配偶者のおかげ
	いつも頑張ってくれています
	理由は満足しているから
	ほぼ全てをやってもらっている
	自分が全く育児をしないから
	ほぼ任せており、文句ありません
	私が何もしない分、全てにおいて頑張ってくれて います
	理由は、共働きだが、今以上はほぼ不可能なくらい 育児をしてくれているから
	私自身が仕事に専念できる環境がある
	困っていない。
	妻は仕事をしながら非常に頑張っていると思いま す
	専業でやってもらっているので
	理由は仕事が忙しく、帰宅が遅いため
	家をあけることが多いため多くのことを負担して もらっている
	母親の育児は大変
	元気に過ごせているから
	配偶者が育児に専念してくれているから仕事に専 念できる
	ほぼ全て家事をこなしてくれるから

付録表5 結婚・出産に関する自由記述

理想的な時期なんて考えずに、出来る時に結婚・出産したほうが良い。それよりも仕事に対する意欲を高く持ち続けることが大事だと思います。
可能ならば 専門医取得後 40歳までには
個々の身体的、心理的に適切だと感じる時に、実現できることが理想
十分な育児サポートが見込めるのであれば、早い時期に結婚・出産するのが良いと思う
人それぞれです。医師だけの話ではないように思います。
いつでもいい。その時の自分に合った働き方にいつでもシフトできる職場であるべき。
妊娠出産を自分達でするなら生物学的なりミットは変えられないので、その上で調整するしかない。養子縁組や、子供を持たない選択肢を取るのなら特に時期の縛りはないと思う。
理想のタイミングは本人が決めることだと思います
各々が決めること。女性は出産年齢の限界があるので、早いか遅いかは自分で判断すべき。
専門医資格取得後。専門医取得には症例の蓄積が必要でありそのためには時間の確保が必要である。子供がいるとその時間が否応なしに少なくなるため、専門医取得後が better ではないだろうか。また、専門医取得後であれば自信の確保もできるため産休/育休も気持ちの面で焦ることなく確保できる。ただし、取得後の年齢が出産可能年齢の範囲かどうかの検討は必須である。
育児の体力、育児後のキャリアを考えたら出来るだけ早い時期が良いが、大学勤務や大学院生などは臨床、研究、教育と多忙な上に給料も低いので苦勞すると思う。キャリアパスをどう考えるか次第ではあるが、家族との時間を考えれば大学や三次救急病院は避けた方がいいかもしれない。
結婚については、いつでもよいと思います。出産については育児希望があるならば、生物学的な妊孕性を考慮して、30歳までには検討されるのがよいのではないかと思います。体質によって、欲しいと思ったときにすぐ産める人ばかりではないので、数年間の不妊治療を経て出産される場合も想定すると、です。育児に対する考え次第なのではないでしょうか。
専門医取得については、専門研修の単位取得と試験勉強は、子供を持つと単身でいるときより難しい場合があります。①専門医取得と出産・子育てを両立する(自身の覚悟と周囲の協力体制が必要。時短勤務など制度をよく調べれば診療科によっては長期戦で取れるパターンもあるかもしれません。)②最短で専門医取得して出産を後に検討する(ストレートで医師になっても専門医取得は30歳頃)③子育て優先でひと段落したら専門医取得を目指すか(ただし手の手が離れるのはだいたい13歳以上とか...)。などのパターンが考えられると思います。
いつでもいいのだが、専門医取得のめどがたつたころがいいかも
その人の性格によるところだと思う。私は専門医をとった後の今でちょうどよかった。
初期研修時以外。短時間で1日の業務が変わるので調整がつけにくい。
結婚はいつでもよい、出産は仕事を身に付けてから(専門医とったあと)
結婚はいつでも、出産は可能なら専門医を取ってから、そうでないと土台の出来ないうちに医療から離れてしまう。
仕事を優先するなら専門医取得後、そうでなければいつでも
出産リミットがないなら、ある程度自立してからが当然よい
専門医取得直後(卒後6-7年目)→出産は早ければ早いほど良いとは思いますが、専門医取得までキャリアを積んでおくことより現場復帰がスムーズにできると思うから
自身が何を重要視するかによる
専門医取得してからが望ましいと思うが、出産年齢を考えるともっと早い方がいいと思う。
早ければ早い方がいいと思います
医師としての経験やキャリアをある程度積んだ後。自身にしかできない特殊な技能や経験があればそれだけで必要な人材として手厚く扱われるため、自分自身のペースに応じた働き方がしやすい。「他人ができないことができる」、ということで、育児後にも戻ってきてほしいという声もかかるし、より好条件での働き方を選択できる。子育て中に働く時には、それだけで周囲の人に頭を下げてまわらなければならぬので、仕事への不安要素を減らした後の子育てと仕事の両立のほうがご本人は楽だと思います。
医者になる年齢も様々、結婚年齢も様々なので、理想はありません
出産は年齢制限があるので、そこは考える必要があります。
医師になった直後だと、知識や経験から復職したときに自信が持てない気がしたため、自身は、8年目での第1子出産となりましたが、比較的知識や経験が一通り定着したあとだったので、復職時も楽だったような気がします。
専門医を取得した後 子供がいるとフルタイムで働くのが難しく、症例の経験が不足すると思うので
最近はサポート体制がしっかりしているので、本人のしたいときでよいと考える。本人の働く気があるかどうか次第。キャリアや技術の育成中ではかなり苦勞しましたし、子供を40歳近くになって産むと体力がさらに削られます・・・7-8年目ぐらいが最適でしょうか。。わかりません。
結婚はいつでもよい。出産は、臨床研修修了後、なるべく早いうちがよいと思う。理由は、年齢とともに体力が落ちるので、いちばん両立が大変な乳幼児期を若いうちに通過したいから。
専門医取得後。出産後に研修指定病院で働けるかどうか、確実とはいえないと思います。
早いほうがいいと思うが、出会いがあればそのときがタイミング。
結婚は相手の理解があればいつでもいい。出産は仕事に没頭できなくなるので入局後3年くらい、仕事を少し覚えてからくらいがいいのでは。
人によってさまざま 配偶者に理解がある人を選ぶことかと。
結婚はいつでも問題ないと思います 出産もその方のタイミングで問題ないと思います 結婚と出産がいつ頃が理想か、という質問があること自体が、この問題の解決が程遠いという印象をうけます
結婚もしたいと思った時にすればいいし、妊娠した時が産みどき。なぜなら結婚も出産も自分でコントロールできる

<p>ものではなく、結婚したいときに相手が現れるわけではないし、妊娠したいときに子供ができるわけではない。専門医取得後。一人前として働ける。基礎ができており柔軟に新しい職場や部署で働ける。</p>
<p>結婚はいつでもいいと思う。出産は専門医の前後。他のタイミングで出産したことがないが、遅いと妊娠しにくいし、早すぎると遅れを取り戻せないと思う。</p>
<p>子供は授かりものであり、その人がどれくらい子供が欲しいかによります。子供がどうしても欲しい場合や2人、3人と生みたい場合に、不妊治療が必要になるかもしれない可能性を考慮すると、20代のうちに第一子のお産を考えた方がいいと思います。自分のキャリアを優先したい場合には、専門医の資格をとってから出産を考えた方が、時間を考えず仕事、勉強に専念できると思います。いずれにしても女医の場合、まずは仕事をしながら、いい伴侶を見つけるのが大変かと。。。</p>
<p>結婚したいと思ったとき。いくらでもキャリアパスの変更の効く職業だから。</p>
<p>既婚子無しときは働き方が大きく変わる人は少ないので、結婚はいつでも良いと思います。出産は私は専門医取得後大学院中で、だからこその恵まれた働き方が出来ていると思いますが、出産も30代半ばになったため必ずしもこれが良いとも思えません。早く出産した人が必ずしもキャリアを築けていないわけではないので、初期研修を終わらせるのは前提として、産みたいと思った時がタイミングのように思います。</p>
<p>いつが理想ということはない。自身は専門医や学位を習得後のある程度キャリアを築いた上での結婚・出産であったが、高齢出産では体力的に大変だから</p>
<p>早ければ早い方がいいと思いますが、相手のあることなので、人それぞれでしょう</p>
<p>周囲を見ていると、研修医のうちか、大学院生のときなど、比較的自由に時間が使える時がいいように思います。どの時期でも悩みはあると思います。</p>
<p>しかし、専門医取得前であると専門医取得に症例取得や条件を満たすのになかなか大変だと思います。</p>
<p>相手がいる時が適切な時期</p>
<p>結婚はいつでも構わない。出産については、入局後3年ほど勤務し知識や臨床能力を持ってからのほうが、復帰後も効率よく働けるし、必要とされる面も多い。しかし、少しでも若い方が体力もあり、将来的なプランも立てやすいと感じるため、それぞれのタイミングで構わないと思う。</p>
<p>したいときにする、人生ですから。</p>
<p>専門医取得後。専門医取得前に子供がいて時短勤務だと、必要症例が足りなくなる可能性がある</p>
<p>自分がキャリアを優先したいのか、子育てを優先したいのかどちらかによります。上司に言われた言葉で大事にしているのは、仕事はいつでもできる、でも出産は限られた時間しかできないということです。</p>
<p>私自身は研修医2年目で結婚しその翌年に産みました。現在働いていて大変なことは多くありますが、専門へ進む前に一人産めたことは良かったなと思っていますので、研修医から専門へ上がるタイミングでの出産は一つ良いかもしれません。</p>
<p>若ければ若いほど理想。しかし、専門医等の兼ね合いでそうも行かない。</p>
<p>妊孕性を考慮しつつ入局後に一通りスキルを身につけるなら、学生時代か専門医取得前後</p>
<p>個人の考えで良いと思います。ただし、出産には生物学的なリミットがあることは留意しておくべきでしょう。</p>
<p>いつが最も良い、ということはない。妊娠出産したタイミングに合わせて仕事と生活を組み立てていくイメージ。</p>
<p>したいとき。それ以外ない。いつが理想かを考える必要はない。</p>
<p>配偶者や親のサポートが十分得られる環境なら、出産は早くても両立は何か可能だと思うが、配偶者や親のサポートが得られにくい状況なら、専門医を取得してからのほうが働き方の選択肢が広がり、両立しやすいと思う。</p>
<p>専門医取得後です。整形外科など手技が必須の科では、ある程度オベグができるようにならなければ仕事にならない。</p>
<p>結婚は何時でもよい。出産は、研修医を終えて病院勤務を始め、ある程度職場での自分の立場が確立された時期（早く戻ってきてね、待ってるねと思ってもらえる時期）が良いと思う。研修期間中、病院勤務開始間もないころはまだ職場にとってお客さんに近い時期であり、その時期に産休・育休に入ると存在を忘れ去られ、また同期とも医師の能力に差が生じて、復職しづらくなる印象がある。</p>
<p>縁があった時 それ以上でも以下でもない。ただよご縁がすでにあったと仮定した場合、出産できるかのリスクはあるがある程度仕事で頭角を表してからの出産というのもあるが上記リスクによりお勧めともいえない</p>
<p>元々は専門医取得後が望ましいと考え自分自身もそうしたが、30代半ばをすぎたの妊娠出産は体力的にも辛いことが多い。一度流産を経験したこともあり、もう少し若いうちに子供が産めれば...と考えたこともある。選択した診療科や各自の置かれている環境（職場の理解、家族のサポートなど）によっても異なり、理想的なタイミングというのは人によってかなり変わってくるのではないかなと思う。強いて言えば、本人が望むタイミングで結婚・出産できることが一番良いと思うが、それはかなり個人個人で考え方が異なるようにも思う。</p>
<p>いつでも同じ。必要なのは、職場の理解と本人の覚悟。</p>
<p>結婚はいつでもいいと思うが、出産を考えると生殖年齢があるので、時期について一概には決められないのでなかなかいつがいいと言うには難しいと思われる。なので、結婚と出産を一緒に考えるのはナンセンスです。自分が医師人生をどのように生きたいのか、逆に人（女性？）としての人生をどう生きたいのかによって、だいぶ変わると思います。また、結婚、出産をしても、仕事を継続できるのであれば、いつでもいいと思うし、いったん医師としてのキャリアをストップするつもりなのであれば、やはりせめて主科の専門医をとっておかないと、復職が難しく感じたり、社会と離れている間に、焦燥感にさいなまれる可能性があるのかなと思っています。</p>
<p>自分がこの時と思うタイミングが最も理想。特に妊娠は望んだタイミングで必ずしもできるものでもないため、理想を求めすぎなものではないと考える。</p>

付録表6 学生時代にしておくこと・考えておくこと

10年、20年先の将来像も含めた計画
10年単位での人生設計が大切。
10年単位の将来設計
1人では生きていけないので他者との良好な関係作りのあり方、時間配分の考え方、感謝の心構え・伝え方
20年-30年後を見据えた診療科選択
5年後、10年後の医師としてなりたい像をイメージする
あまり考えすぎず、学生時代にしか出来ないことしっかりと。英語は勉強しておく。
あまり考えすぎない。学生らしく、過ごしたらいい。
医学以外の知見に触れる
いかに効率的に、仕事をおこなうか。
いろいろな社会を見ること、どの分野でも必要な学問をよく勉強しておくこと
いろいろな職種や年代の人に会っておく。バイトで異職種を経験する。
いろいろな人生経験をつむことが大事だと思います。
多くの読書と多様な経験一患者の苦悩に共感ができる医師に
多くの経験
お金ではなくやりがいを感じる
お金の勉強をしておくこと
家事が一通りできるように一家事が得意だと、仕事との両立が良いと思う
患者の気持ちがわかるように
キャリアパスは大事だと思います。
キャリアパスを考えること
キャリアパス検討。職場の選択のための見学・調査。
キャリアプラン
キャリアプランを考えておく
興味があることにしっかり打ち込む
興味や問題意識を持つ
協力
現実的な方向性と着地点
コミュニケーションが大事
さまざまな医師像
さまざまな経験をしておくこと。
さまざまな分野への興味
しっかりと、医師という仕事への思いが大切。
しっかりと学んでください。
しっかりと勉強しておくこと
自分が何をしたいか考える
自分のやりたい科を優先して
自分のやりたいことが自分の体質、性格にあっているか考える
自分の置かれている状況、心情、意見を言葉にしてはっきり伝える能力
自分の適性、将来性、情報
主体性
将来設計
将来設計、あまり考えすぎるとも良くないかも
将来することを決める
人生設計、勉強
人生設計を立てる
人生設計の計画
セクシャルハラスメントへの適切な対応の仕方
積極性
たくさん遊ぶ
誰にも気兼ねなく休める
チーム医療、コミュニケーション
どこまで専門性を高めたいか
どんな医師を目指すか考える
どんな医師になりたいか、ロールモデル探し
何事も早めの準備
何をしたいか明確に
夫婦での育児分担の必要性の理解、育児サポートサービスや家族からの支援を受けられる体制づくり
プライベートを充実させる
勉強、人生経験を積む
勉強する
勉強以外のことも熱心に取り組む
ボランティアで無くとも良いが社会貢献性が高いことや、広い人脈形成できる様な活動。
本当にやりたいことを考える
やりたいこと、得意なこと
やりたいことが出来る環境が大切

やりたいことは何かが大事。
やりたいことや追求したいことをこだわってとことんやっておくこと。
やりたいことをやりきる
よく学びよく遊ぶ
ライフプランの設計
ライフプランニングを含めた情報収集
ライフプランを考えておく
ライフプランを考える
ワークライフバランスを保つ
医学の勉強 勉強する
医局選び
医師としてどうしたいか、10年ぐらい先までの自身の大まかなキャリアパス
医師としての責任と個人としての権利や自由のバランス。
育児に対するビジョン
一生のプランを立てる
英会話をしっかりと
英語
英語、英会話の勉強
英語でのコミュニケーション
英語とコンピュータに持続的に取り組むこと
英語の学習、よく遊び、よく学ぶ
何にでも耐えられる心の訓練と何も考えないことができることの鍛錬
何をしたいか、ビジョンを持つ
海外旅行などの人生経験と英会話の勉強。
学生しか経験できないことをできるだけやっておく
学生のうちに出産しておくのも良いかもしれない
学生のうちに遊んでおく
学生の間にいろいろな経験をしておくこと。
学生の間にできることは頑張るってやること
学生時代は特はない
給与明細の見方、お金の管理
興味のある分野
結婚、妊娠、出産の時期
結婚出産のタイミング
結婚出産の時期
自分がどうありたいか
自分がどうしていききたいかなどのライフプラン
自分が何をしたいか
自分が興味があることを見つけ、情報を収集する。
自分が最も興味のある事を見定め、その方向性に進むための具体的な課題や解決策の検討
自分が目指す姿
自分のライフプランについて。
自分のライフプランを立てておくこと。
自分の医師像
自分の中の優先順位(仕事もプライベートも含め)
自分の得意なことの把握
自分の特性の把握、持続可能な勤務体制であることの保証、常勤医として家庭を持ちながらも勤務できる職場環境に関する情報公開
将来どうなりたいか。
将来の医療経済の不透明さ
将来やりたいことの優先順位をつけること、その働き方ができる職場選び
将来設計
将来設計。
将来像
将来像をイメージして、そこからの逆算
将来像を想定しておく
人生プランのイメージ作成
人生計画。
人生設計をきちんとしておくべき、何歳までに何をするか、など
生活のメリハリ
専門医の取りやすさ
相手との話し合い 情報収集能力の向上
大まかなライフプラン。
探究心、引き算で考える
入局する医局
理解ある医局と診療科の選択
理想の医師像、色々な経験、自分が興味ある分野の開拓
旅行など、勉強以外にも含めた様々な経験
両立が難しいこと

付録表7 学生へのメッセージ

<p>このような取り組みは素晴らしいと思います。ありがとうございます。</p> <p>私の職場で思うこととしては、女性だけでなく、男性医師の育児にも理解がある、というところが、結果的に女性医師もこのびと働け、家庭のこともできるとつながっているように思います。配偶者の協力、というところに関係してくると思いますし、男女間の軋轢にもつながりづらいと思います。健康問題や介護（女性の負担が多いかもしれませんが）など男女ともに関わる問題もあります。男女問わず、各々ができる範囲で支え、できないときは支えられる雰囲気や仕組みが確立されていけばよいと思います。"</p> <p>深く考えて診療する事が重要、最初から安易な道は選ばない、始めに苦労すれば後々楽</p> <p>学生研究で全国の医師にアンケートを取ろうという行動力が本当に素晴らしいです。</p> <p>その行動力があればどのような方向に進んでも未来は明るいことと思います。</p> <p>親に勧められたから医学部受験した人が多いようで、医師になる気持ちに乏しい学生が多く見受けられます。いつまでも親離れできず、何かあると親に勤務先にクレームを言ってもらって問題を解決しようとする研修医が珍しくなくなりました。お母さんが好きで親子関係が良好なことは良いことだとは思いますが、医師業に支障をきたすほど親が過干渉なのはいかがなものかだと思います。精神的に幼い人間が、患者の気持ちを理解するには限界があります。学生時分に親とのかかわりを見直すことをお勧めします。</p> <p>学生のうちから男女問わず、仕事と家庭について考えておくことは大事だと思います（特に男性には専業主婦と結婚すれば問題なしという時代ではないことを知ってもらいたいですね）。私自身はライフプランを心配し過ぎてしまい、少し勿体なかったなという面がありました。皆様には自分が面白いと思ったことには躊躇せずに取り組んで欲しいです。そして常識にとらわれず、障害となることやおかしなことは変えていき、どんどん未来を切り開いて行って欲しいです。</p> <p>診療科によって、業務内容は全く異なります。仮に夜間呼び出しや拘束時間が短くても自分に合った仕事でなければ続けることは大変です。座学、学生実習、(初期研修)を通じて、自分が最もやりがいを感じる領域に進むことが大事だと思います。</p> <p>最後に、部活なども大事ですが、勉強も実習も、その時にしか得られないことがありとても重要です（自分は反省点が多々あります...）。</p> <p>医学生の皆様が充実した学生生活そして医師人生を送れますよう心よりお祈り申し上げます。"</p> <p>・結婚を考える相手には、きちんと自分の将来のビジョンを伝え、互いにどのような地で働いていきたいかを話し合っておくべき</p> <p>・先々をスムーズに進めるためには、今の学びを疎かにしないこと。受け身ではなく主体的に学んだ学生さんを臨床実習で見かけると、こういう人の未来は大丈夫だなと確信します。</p> <p>・必ず多忙になるので、上手くやりくりしてください。でも、楽しんで。"</p> <p>・仕事は一生する前提でのキャリア選択を考えると、フェミニズムに関する書籍を読むこと（女性：過去～将来遭遇する不公正に備え、知っておくことで自己評価を下げずに済む。男性：社会において自分がいかに優遇されているかわかる）、広い視野を身に着けること、家庭についても身近な例だけでなく様々な形を知る（特に田舎はバリエーションが乏しいので）。</p> <p>・パートナーを持つ場合、パートナーの選択が決定的に重要で間違えると医師としてというより職業人として苦労する（ので間違っと思ったらさっさと別れるのがいい）。"</p> <p>「医療とは理路整然とした科学と、心溢れる情熱の融合である」とは恩師の言葉です。</p> <p>また「一生勉強、一生青春」も。</p> <p>様々な出会いが、経験が人生を豊かに、味わい深いものしてくれます。</p> <p>ともに学び、楽しみましょう。"</p> <p>「楽そう」という理由で科を選ばず、自分の興味ややりがいがあると感じた科を選んでほしい。どんなに大変なことがあっても、自分で考えて選択した科であればきっと乗り越えられると思う。</p> <p>1. 専門性が高くなるほどその分野の医師は少なく、就職先も限られることから、転職の際に移動距離が大きくなる。専門分野によって遠距離の転勤が起り得ることを自覚しておくこと。</p> <p>2. 収入が多い職種ではあるが、その分多忙であり、就職後に資産運用の方法について学ぶ時間はない。学生時代にある程度、税金のしくみ、資産運用について学ぶことをおすすめする。"</p> <p>10年後の自分をイメージした進路選択を</p> <p>30歳頃、40歳頃にどのような自分になっていたかを想像できますか。</p> <p>働き始めると目の前の仕事に一生懸命で、先のことは考えられなくなるかもしれません。</p> <p>若いうちから、何となくでも将来のイメージを持つことができると良いですね。"</p> <p>QOLも大事ですが、まずは何がやりたいかを考えましょう。</p> <p>QOLも大事ですが、自分が興味を持って続けられる科を選んでください。</p> <p>QOLや給与のみに囚われず、生涯続けていく仕事として興味を持てる分野を探して欲しい</p> <p>あまりQOLだなんだと小賢しく考えずにはまずはしっかりと勉強して医師としてある程度の実力をつけることが必要。真面目に働いていれば、いざ出産や育児となった際に周りからの理解はついてくると思っています。</p> <p>あまり迷わず、直感で動くべきだと思います。</p> <p>"あまり余計な事を考えず、自分がやりたいと思った診療科に進んでください。人生設計のために行きたくない診療科を選ぶのは、それこそ充実した医者ライフは望めません。</p>
--

診療科の選択は、自分がその科にずっと興味もてるかを選ぶ。女性の場合は、親または配偶者の協力がえられる環境作りを意識する。
医者という仕事は、患者さんへの愛がないと続けられない職業です。
一方で、自分しか守ることができない家庭があり、その狭間でみんな悩んできました。
私たちは一生懸命考え、自分なりの答えを導いて、今充実した人生を歩んでいます。
大学病院には、そんな先輩医師がたくさんいますので、気軽に相談してください。"
ある程度のライフイベントの予定(希望)は考えておく必要がある
医師として働くことを、社会貢献していることをポジティブに考える
いろいろなことに興味をもって首を突っ込むことは大事。
大きな目標と、スモールステップで進んでいけるような小刻みな目標を両方設定する癖を付けておくとういのは。"
いろいろなことを経験してみることが大切だと思います。医師として充実して働けなければ医師にこだわる必要はないと思います。視野を広げていろいろな経験をしてみてください。
いろいろな人の意見を聴ける、柔軟な心を持てるようにする。
いろいろな体験できることは積極的にアプローチして欲しいです。
いろんな女医さんの例をみて、自分の将来についてさまざまなパターンを考えておくべき。将来の結婚や出産を学生の間に希望していなかったとしても、いざそうなったときに、思うようにいかないことがたくさんあるので、多くの選択肢を自分の中に準備しておくべきであると思う。
がんばってください
キャリアプランをある程度立てることは大切だけど、思うようにならないことも多いのでそんな時に柔軟に対応できる能力こそ一番大切。
このような取り組みは大事だと思います。
私は大学の診療科の科長ですが、学会でワークライフバランスの担当もしています。
進路だけではなく、卒後10年後、20年後の家庭や仕事のイメージをなんとなくでも持っておくべきだと思います。
学生の間に考えておくことは、医師は手技系の科の方が多いので、自分の適性が手技系か、内科系か判断することが必要に思います。
研修医になってから、と考える人が多いですが、学生の間に自分の興味がある分野を見極めておくのが大事に思います。
人として手本になれない医者が多過ぎます。医学部の教室を見回して下さい。それが、医師達の縮図です。人としての振る舞いを勉強して下さい。
いずれにしても勉強が大事で、まずは国試に受かるように勉強することが必要ですが、マークシート試験の点数を取れるだけでは、臨床医としてはあまり役に立ちませんので、理論的に思考する回路を作る事が大事だと思います。
それにはイヤードットだけではなく、朝倉内科を読んだり、英語の論文を読んだり、基礎研究に携わってみる事も必要に思います。
臨床医としてやっていくにも、大学院で研究をしておく、知識や経験の幅が広がり、臨床のスキルも上がると思いますので、研究をする期間を是非考えてみてください。
人生としては、仕事に流されず、結婚出産を早めに考えておくのが良いかと思います。
私は子供とアメリカに留学に行きましたが、反抗期だったので行く前、行ってから1年は嫌がって大変でしたが、2年目にはずいぶん適応して結果的には子供の方が私よりアメリカになれてしまいました。
一度きりの人生です。医師免許を取って、専門医が取れたら食いつぶぐれない、というような狭い考えはもたず、研究したり、留学したり、というような人生を設計される事を期待します。医師の仕事は基本的に肉体労働でしんどい事が多いので、お金で判断せず、ただの「労働」ではなく、何か後に残る「仕事」をするように考える方が良いと思います。
このような取り組みができる大分大学医学部の学生さんは良い医師になる事を確信します。"
コミュニケーションがうまくとれるよう心がけることが大切
コミュニケーションスキルは大事です。友人とたくさん遊ぶ中で身に付けられれば良いなと思います。
これからはグローバルに働くことになると思います。少しでも英語に親しみ、せめて同じアジア圏内で、問題なくコミュニケーションをとれる様にしておきたかったと思います。
これから医師の働き方改革もよいよ法制化されます。女性だからと自分に枠をはめることなく、自分が興味がある分野に挑戦してください。
コロナ禍で制限が多く大変と思いますが部活や課外活動頑張ってください。医師になってからでは得られないような経験が役に立つような気がします。
コロナ禍で制限は多いとは思いますが、趣味でもバイトでも旅行でも、大学以外の世界も楽しんでください。
さまざまなライフプランがあると思いますが、結婚・出産を考えているのであれば、どちらもできる限り早くすべきだと思います。
女性の人数が多いほど、理解がある方が多いので、そういう面を考慮して医局を決めるのも良いかと
"すでに結婚を意識する相手がいるのであれば、事前にお互いのキャリアプランなどを話し合って、研修先や診療科を選択する際に相談して決めるのが良いと思う。
ただ、相手に合わせることばかりを最優先にしても、本当に結婚するかわからないし、後々になってやはり違うことがしたかったと思ってしまうのはもったいないので...

うまくバランスをとって将来の選択をしていければいいのではないかと思います。"
すべてを叶えることは不可能なので、自分のやりたいことの優先順位を考えるべきだと思います。
先輩から仕事や生活の話を聞いておく、勉強、興味を持つ、意見を言えるように
その科の先輩がどのような働き方を幅広く選んでいるか、きいておく。
その時にできること、したい事をやりきれば悔しいと思います。
その時の目先の環境や待遇で進路を決めず、そこに入った人がその後どうなっているかをよく観察すること。女性が働きやすい職場のように見えて大学院への進学率が極端に低かったり、スタッフになっているのが男性だけだったり、男性であっても、40歳以降思ったような仕事をしていなかったり。勧誘するときはどこも最大限いい話しかしないから、実際の人、勧誘の表に出てこないような人々の動きをよく観察すること。まあ無理かな。
その人なりに末長く医療を継続すること
それぞれ家庭背景が違う（支えてくれる元気な両親がいる、夫や自身の家事育児能力、自分自身の体調など）ため一概にはいえませんが、家族が増えると自分の思い通りに動けないことも多々ありますので学生のうちにできる勉強をしっかりとっておいた方が良いかと思います。だからと言ってネガティブに考えず、何事も完璧にこなそうとせず、自分がやりたいと思った道を「諦めずに」進むことで、充実した人生につながるのではないのでしょうか。
たくさんのごことを経験すること。恋愛も含めて。
たくさん先輩の話を聞き、自分の考え方や希望を発信できる力を身につけて欲しい。また、医療界だけでなく、社会全体の流れや考え方にアンテナを立てておくことはとても重要だと思う。
たくさん計画をたてて全力で努力してきたつもりでしたが、人生は計画通り行くわけじゃないとまだ10年の短いキャリアの中で何度も思いました。10年前抱いていた将来像と違う科にすすむ人生を送っていますが、その都度悩んで、パートナーがいる場合はよく話し合っ決めていけば、その時の最善の策が見つかるのではと思います。考え方は常々変わるので、将来を決め過ぎず、頑張っしてほしいと思います。
たまたま、自分の人生において「何を大事にしたいか」を本気で考え、医師としての働き方もいろいろあることは知っておいても良いと思う。学生～研修医時代は医師という仕事への憧れややりがいだけでなく、でも頑張れるが、実際に医師となり、さらに家庭を持った場合に「仕事」と「家庭」を少なからず天秤にかけなくてはいけない瞬間がくる。普段接することの多い大学の医師の多くは従来型の働き方をしてきて現在の立場にいらっしゃる人が多いと思われるが、果たして近年の医学生・若者の価値観を理解しているかはわからない。地域の市中病院、クリニック、フリーランスの医師など世の中にはいろんな理由からいろんな働き方をしている医師がいるはずなので、本当は「いろんな選択肢がある」ことを知っておくと、いざというとき、自分の人生において大切にしたいものを守る選択ができるかもしれない。
どういう意志を目指すかヴィジョンを持つておく
どう生きたいか、育てたいか、またそのためには今何をすべきかを考えておく
ときに医療と関係ない趣味を持つこと。一生学習し続けること。
とくに女性医師にいいことは、自分の機嫌を自分でとれるようになれ、です。母親になるのなら、母親は家庭においてもっともコアであり、母親が毎日機嫌が悪いと家庭の雰囲気が悪くなってしまふ。なので、仕事も好きなことをやり、毎日笑顔ですごせるようにするべし、と学生にはアドバイスしています。
男女共同参画センターなどの集まりに行っても毎回思いますが、ほとんどの女性医師は、医師になれて、結婚出来て子供も生まれたのに、家事育児・仕事への不満が大きく、不幸そうな人が多いです。残念なことだと思います。やはり女性は一般的にも不幸体質な方が多く、なにかと周りから不幸にされていると考えがちですが、自分を幸せにできるのは自分だけです。"
とにかく医学を学び、興味、疑問点を持つこと。家庭を大切にすること。
とにかく免許さえあれば自分の努力次第でキャリアアップは出来ると思います。子供がいても居なくてもどんな医師になりたいかをしっかり考えて日々を過ごせば充実した医師生活がおくれると思います！
どのような医師になりたいのか、人それぞれ働き方、人生が違いますので、このような医師になりたいと思うロールモデルを見つけられるとよいかと思ひます。
どのような医師を目指すかなるべく具体的なイメージを作ること
どのような医師を目指すのか、常に考える習慣をつける
どのような医師像を目指すのかをしっかりと考えてください。人生思ったようにはいかないことも多々ありますが、理想の医師像に向かって努力すれば必ず道は開けます。育児もキャリア形成も大変ですが、無理をしすぎず、頼れるものには全て頼ってみるとなんとかなるものです。
どのような人生を送りたいかを考えておく
どのような分野を選択したとしても、困難は必ずあります。だからこそ、自分の本当にやりたい分野を選んで進んで下さい。（不本意なことを選択すると、つまづいた時に立ち上がりにくくなります！）あと、大切なのは、「お互い様」の気持ちです。
どの時期に出産、育児をするにしても、職場の理解、上司や同僚の理解、協力は大切です。自分ができることは精一杯取り組み続けていれば必ず道は開けてくると思ひますし、子育てを通じて医師としての人間の幅を広げてくれます。
どれだけ理想のライフプランを考えても、その通りになるとは限らない。不妊・不育で悩んだり、授かった子供が障害を持っていたり、現実はまだならない。
結局、自分の理想像すら状況に合わせて変化させていくしかなく、それを挫折ではなく前向きな変化と

捉えてやっていける柔軟性が大事だと思います。"
どんな医師になりたいかのビジョンを持つておくこと。
どんな科にすすんでどの程度仕事に時間を割きたいか考えるべきだと思います。また、結婚を考えている人がいるならば、同業者であれば結婚後の生活をしっかり話し合ってから結婚したほうが良いかと思いません。
なぜ、自分が医師として働きたいのかをよく考えてください。どのような状況になってもなんとか続けようとする努力は必要だと私は思います。
なぜ医師を目指したのか、どんな医師になりたいかを明確にしておくことが大事
なるようになるので学生生活を楽しんで。
にげない
バリバリ仕事やりたいか、QOLを優先するか自分に合ったライフスタイルを考える
バリバリ働いている人だけでなく、仕事から離れている人も含めた色々な先輩方のロールモデルを見聞きし、自分なりにどんなキャリアを築いていきたいかという考えを持っておいた方が良いと思う。
ビジョンを持つことは時にプラスに働くことがあります。なくても目の前のやるべきことをやっていければ、そのうち見えてくるものがあるかもしれません。人生、ひとそれぞれです。
プライベートあつての仕事です。プライベートの充実も心がけてください。
プランを立てるのが難しい場合があります。プランを立てても、その通りにならない場合もある。重大な選択をする場合には、優先順位を考えて、大事なことは何かを考えると良いと思います。
ポリクリでしか回らない科があります。実習は大切にしてください。
まずは専門領域を決めて、若い時にしっかりと知識・技術・患者への姿勢・診療方針の立案法を身に付けることが重要です。特に、広く浅く知識や技術を身に付けようとする、専門領域を確立しにくくなります。医師としてのアイデンティティを得るためには、自分の得意分野を理解し、謙虚な気持ちで自己研鑽を図ることだと思います。
まだ女性が子育てをしながら働くには女性の実家の手助けがいると思います。仕事と子育てを両立している先輩は大体実家近くに住んでいます。
まとまった時間が取れるのは学生時代だけ。学問だけではなく人生勉強も大事！
みんなと足並み揃えれば大丈夫です。
モチベーションを維持すること
もっと世の中のことを知る。制度とかに限らず、同年齢ですでに社会で働いている他職種の人も交流をもつ方がよい（他職種の勤務状況とか、働き方とか、給料とか、出産・育児とかについて知ることも必要）。医師の前に社会に入るための準備をしておいた方がよい。
やってみないとわからないことも多いので、学生の間は可能性を狭めず、色々なことを学んだら良いと思います。色々ありますが、辞めずに頑張りましょう！
やりがいがあると、どんな環境でも仕事が続けるというモチベーションを保つことができます。進路を決める際、妥協をせず、本当に自分がやりたいことを選択すること、また途中での進路変更も可能なので、迷ったときは進路変更も視野に入れることが重要だと思います。
やりがいも大事だが給料や休暇などのバランスを考える必要がある
やりたいことだけできるわけではないけど、頑張ってください。
やりたいことはその都度かわり、学生時代の希望と、就職後にかわることはよくあります。身体的・精神的につぶれないことが経験上、最も重要です。
まずは、その都度かわることは前提でやりたいことを頑張りましょう。まわりの助けてくれる資源を常に意識して、独りではないということを意識しましょう。
やりたいことは積極的にトライしたほうがよい
やりたいことをとことん突き詰めることが重要だと思います。
やりたいことをやらないと続かないので、やりたいと思ったことをやりましょう。
やりたいことを見つけることが大事です。
世の中には、多様な価値観があることを理解し、想像力を膨らませること
ライフイベントで仕事が第一にできない時期もあるかもしれないが、家庭も仕事もあきらめないでほしい
ライフステージに合わせて勤務状況が変わる可能性があるのである程度働き方の選択肢が多い勤務先を選択することが重要だと思います。
ライフプラン通りにいかないことも多いので、その時その時に大事なことを考えていくことが大事と考えます。
ロールモデルとなる人を見つけられれば良いし、あるいは自分がロールモデルになるよう頑張っても良いと思います。感謝の気持ちを忘れず、その時々でできる仕事を頑張ってください。
ロールモデルを探して、それぞれの職場ではどのような働き方が可能なかを把握しておく必要があると思います。
行政や職場からの支援策など、使えるものは何でも使いましょう。"
ワークとライフのどちらを重視するかで、選択する診療科が変わってくると思います。結婚したいか独身でいたい、子を持ちたいか否か、最先端の医療をつっぱしっていききたいか...様々な人と出会い、様々な経験を通して、自分がどのように生きていきたいかを考えてみるのはいかがでしょうか？
ワークライフバランス・資産形成について今から意識してください。
ワークライフバランスについてでしょうか。仕事に専念したいのか、家庭を大事にしながら適度に仕事

をしたいのかによって、選択する診療科なども変わってくると思います。
学生の方へ：不安はあると思いますが、どんな働き方をしたいのか、どんな医師になりたいのかよく考えて、これからも頑張ってください。困った時は遠慮なく相談しましょう。助けてくれる人は必ずいるものです。私も試行錯誤の毎日ですが、ロールモデルになれるように一日一日を大切に、頑張っていきたいと思います。"
ワークライフバランスは最も重要です。
ワークライフバランスも大切だけど、環境は時と共に本当に変わるものなので、自分が医師として生涯携わっていきたくないと、やりがいを感じる科を選択してください。
わからない。いろいろ考えて、出産しても一線で働きたいと今の科を選んだが、現実的にはこどもも持つとそうはならない。権力があるポジションについているのが昭和の男性ばかりなので、個人が頑張っても、卓越した能力や幸運がないと評価されないし変わらないと思う。どうすればよいのかわからないが、とても悔しい。
医学、医療への興味をなくさないこと。
医学以外のことにも興味を持って考える習慣をつけることが大切である。
医学以外のことをたくさん経験しておくことかと思います。学生時代に思っていたキャリアとは違った道になることも多いけど、いろんな経験や周りの人がきっと助けてくれます。
医学以外のことを勉強したほうがより豊かな社会人生活が送れるのではないかと感じています。(お金、語学、社会の仕組みなど) 大学病院からの調査ではありますが、医師の働き方が最も最悪(低賃金、過重労働)なのは大学病院であることは間違いありません。私達もそうですが、これを変えるには若い力が必要だと思います。頑張ってください。
"医学会全体としては育児中の当直免除など働きやすい方向に変わって来ていると実感しますので、子供のいる女性医師は自分としても努力して働き続けることが大事だと思います。興味をもって働き続けられる分野を選んでください。ただ努力してもどうにもならないことはあります(ワンオペ中の夜間の緊急呼び出しなど)。それは周りの援助が受けられるように変えていってください。
男性医師や子供のいない女性医師も病気や介護など育児以外で満足に働けなくなることは十分考えられるので、お互いに思いやりを持って助け合うのが当たり前になればいいと思います。
医師は少しでも働ければ必ず社会の役に立ちます。頑張ってください。"
医学知識だけでなく、医療保険制度の理解、医療にかかわる社会制度の知識、自分の管理するお金の知識、労働基準法、36協定等の労務の知識など、社会的なことをもっと知っておいて頂きたい。医学部の場合、卒業後医者になる＝社会人になるという形になるが、研修病院で社会人としての知識と医師の知識を同時に教育できる環境に巡り合える可能性は極めて低い。せめて6年の大学生活の間に社会知識だけでも先に入れて置くこと、卒業のショックが和らぐのではないかと思います。
医学的な知識や技術のみならず、人としての幅広い素養を身に着けることが大切だと思います。
医業に関する自身の価値観と方向性をときどき再確認し、進むべき道が明確なら周囲に遠慮しないこと。迷ったとき、悩んだ時に相談できる人間関係を作ること。
医師から働き方や人生に関する話を聞く機会を作ること。
医師だからまたは女性だからと言う事で働くことにハンディがあるわけではありません。社会自体が働き方に関して理解を持って改善していくそのような努力が必要だと思います。
医師でも、常勤、非常勤、バイト、研究者など、色々な働き方がある。一つが自分に合わないからといって、医師をやめる必要はない。
医師としてじっくり考えて仕事をする姿勢、プライベートで自分の好きなこと・仲間を見つけておくこと
医師としてのイメージを膨らませること
医師としてのキャリアプランを学生のうちから大まかに考えておくこと。
医師としてのプロ意識を持つこと、完璧主義にならないこと、女性が育児家事をしなければいけないというアンコンシャスバイアスに囚われないこと、ひとりで抱え込まないこと。
医師としてのライフプランや理想を考えて(その通りにいくとは限りませんが)、よいロールモデルを探すといいと思います。
医師としての基本的なものの見方、考え方を身につけていくべきです。
医師としての具体的な理想と自分がどこまで出来るかの現実を見極める。
医師としての使命感を持って働けるよう覚悟を決めてほしい。
医師としての使命感を忘れなければ、どんな形であれキャリアを継続できると思います。そのためにも、しっかりと勉強してください。
医師としての職業意識を持つこと、結婚の際は相手をよく選ぶこと(家事は女性がやると思っている人は意識を変えるのが難しい)
医師としての働き方も多様化しているため、自分の医師像を考えておくこと。
家庭と仕事の両立は難しいと感じている医師が多いと思われるが、当番医制の病院も増えており QOL は改善はしてきている。トップダウンな医局が多いため、職場によって対応が全く違うのでモデルケースを探すのが良い。
医師に限らず共働きの育児はとても大変なので、実家などの非常時に預けられる場所を確保しておくことは重要だと思う。
整形外科は全診療で最も男性比率が高く、産休・育休の気兼ねは全くありません。女性医師の入局をいつでもお待ちしております。"
医師としての方向性を(それなりに)イメージしておくべきである。初期研修や施設、給料や利便性、

<p>地元、などの些末なことに囚われるべきではなく、これらはしよせん通過点にしか過ぎない。これらの通過点を経た上で、しかし、理想的にはこれらで培った経験も生かせるように、医師としての全体像ないしは完成像を、それなりに考えておくべきである。その際には、確固たる人でなくても、こういう人物になりたい、とか、この先生のようにになりたい、と言った、先達を基にするのも手っ取り早いと思われる。そのためには、serendipityに代表されるような、気づき、もしくは感覚・感情も重要視したい。ただ、ヒトは変わる（変わるべき）生き物なので、途中で路線変更があったとしても、それが本当に望むことであれば、早々に切り替えるべきだし、以前の理想に拘る必要もない。人生は選択の積み重ねであり、過去の選択の結果が現在に繋がっており、これからの選択が未来を創る。人生にとって最適解は存在しないが、自分にとっての最適解を見出せるように、そして、あとで後悔しなくていいように、常に思考し、試行し、至高の人生を模索し続けてください。</p>
<p>医師としての目標や やりたいこと、理想の医師像を自分なりに考える</p>
<p>医師としてよりも社会人として恥ずかしくないように経験を積んでください</p>
<p>医師として現実にどのような勤務体制で働いているか。特に女性は。</p>
<p>医師として働き続けることは大変なことも多々あります。モチベーションを維持しながら、細くでもよいので長く働き続けるにはそれなりのモチベーションの糧（素？）のような心の栄養が必要です。学生の間に医師として働き続けるためのモチベーションの素になるようなものの視聴・体験を積んでおくことが大切ではないでしょうか。研修施設では「お客様」として大切に扱われますが、医師としての人生は最初の数年で決まると言っても過言ではないと思っています。ここでいかに真剣に積極的に医療を学ぶか、でその後の医師としての器が決まると思います。そのための準備を学生のうちにしておいたらよいと思います。医師として 20 数年が経過しましたが、いまだに学生の時の恩師の言葉や活躍をモチベーションにしていますので、若い時に充実した体験・充実した先輩との関わりは貴重だと考えます。</p>
<p>医師になったら社会に貢献する気概を持つこと まず一人前になるまでがむしゃらになること</p>
<p>医師になったら夢がかなって終わり、ではなく、もっと明確に、具体的に、医師になったあとの人生の目標、ライフプランを考えようとする努力をした方がいいと思う。</p>
<p>医師になってからががんばれるかが大切だと思うので、特にありません</p>
<p>医師になってからの目標をもつことが重要だと思います。</p>
<p>医師になっても勉強することは多いので、学生実習などをできる限りしっかりやっておくと、仕事を開始してからの負担が若干減るかもしれません。</p>
<p>医師になりふりかえれば、もっと学業をまじめに修練しておけばよかった、と思っております。</p>
<p>縦のつながり、横のつながりは重要。知り合いに恵まれる、ことは多いです。"</p>
<p>医師のキャリアは、女性の方にとって、十分整備されていないと考えます。我々の世代が悪いのですが、少しずつは変わってきていると思います。希望をもって医師の道を進んで下さい。</p>
<p>医師の仕事とは患者の人生変えるかもしれない仕事である</p>
<p>医師の仕事についての覚悟を固めることです。</p>
<p>医師の仕事に責任を持つこと、家庭を持った際に継続可能な職種・職場を検討すること</p>
<p>医師の働き方はやはり特殊である点が多い。他職種、特に医療従事者ではない人との交流による幅広い考え方を持つ必要性があると感じています。</p>
<p>医師の働き方は選択した専門科で全く異なるので、仕事としてやりたいこととプライベートで大事にしたい要素を妥協せずに将来の進路を選択してほしいです。</p>
<p>医師の働き方は多様性があるので、柔軟に長く続けること。リサーチマインドを忘れないこと。常に学ぶこと。</p>
<p>「働く女子のキャリア格差」筑摩書房オススメです。"</p>
<p>医師はコミュニケーション能力が大切。</p>
<p>部活など沢山の人と関わり過ごす。</p>
<p>研修時代に仕事に集中できる環境づくり。</p>
<p>仕事、育児どちらかに偏りすぎず、あきらめず、8割主義で両立良いとこ取りをしましょう。可能です。頑張ってください。"</p>
<p>医師は一生かけて行うべき素晴らしい仕事です 中断することなく続けてください</p>
<p>医師は往々にして、厳しい就職活動や充実した初任者研修を経っていないことが多く、自戒も含めてですが、社会人としてのマナーや接遇が欠ける傾向にある気がしています。充実して働くには不可欠ですので、日ごろから同僚や他の医療スタッフにも気を配りながら働くことが大切だと思います。当たり前のように、忙しくて余裕がないとつい疎かになってしまいがちです。</p>
<p>医師は大変責任が重い一方でやり甲斐や達成感を日々実感できる素晴らしい仕事です。その仕事は多様であって、どのような仕事内容に幸福を感じるかは人それぞれの面もあります。自分自身がプロフェッショナルとしてどのような仕事に喜びを感じられるのかを自ら考え、その仕事に集中できるよう勉強だけでなく人生設計や環境づくりも含めて自ら考え準備してことがとても大切だと思います。</p>
<p>医師は忙しい仕事です。学生のときにロールモデル考えるとか授業ありましたが、人生は実際その通りにはなってません。大学、教授、教員は学生さんを困り込み良いことしか言ってくれません。本当に助けてくれるのは、自分の経験したこと、己の体力、家族や親友です。学生時代の同期や先輩後輩を大切にしてください。きっとどこかで助けてくれるはずですよ。</p>
<p>医師を志した動機が明確な人は再確認する 特に動機がなく医学部にきた人は無理に必然性を探さなくてもいいと思うが、どちらも医師という仕事が好きになるように卒後の自分を修正していければ仕事は楽しく続けられると思う そしてお金を稼ぐことよりもっと尊いことがあることに気づけると思う</p>

医師を辞めるという選択肢や、自由診療という選択肢も頭に置いておくと、仕事に潰されることがないと思います
医師以外の仕事への興味を持つ
医師以外の選択肢がないのか再検討した方がいいと思う
医療以外に時間を割く時間が少なくなるので、学生の時にできることを楽しんだ方がよいと思います。
医療以外のことに興味を持って、色々な経験をして欲しいと思います。臨床医師として働くことを目指すのであれば、社会一般的なことを知らない、患者さんの立場を考えることができません。そして、小児科医の立場からは、医師であっても、男性でも女性でも、両親が子育てして欲しいと思います。
医療現場になるべく接しておくことがなりたいたい医師像を見つけやすくなると思います
育児と仕事を両立しやすい診療科、両立しにくい診療科があることは事実ですが、例え両立しやすい診療科に進んだとしても、育児と仕事のバランスに悩む時期はいつかきつと来ます。「この仕事が好き」という気持ちが根底になれば、その時期を乗り越えるのは結構辛いです。両立しやすいという理由だけで将来を決めるのではなく、「本当に自分の好きなことができる診療科」を選択されることを個人的にはお勧めしています。学生のうちにそこまで決めるのは難しいと思いますが、そういった視点で将来を考えてみてもよいのではないのでしょうか。
育児や家事を夫と正しく分担する、家庭内でカバーできなければ他人（親族・業者等）に委ねることを躊躇しないことが重要と思います。
一人の医師を育成するためには、いろいろな人のサポートが必要です。サポートしてくださっている方々のためにも、生涯にわたって仕事を続けられるように努力することが重要と思います。
一生頑張り続けたいと思える仕事を選ぶように、自分に合う仕事はどんなものなのか、人との関わり方や学び方など自分の特徴をよく理解しておく。
一生働いていくための体力づくり、性別に関わらずキャリアを積んでいくためにどうしたらいいか考えること
横にいる同僚が休みを取り、その分の仕事が自分にふってきたときに、どのように考えるのか
何があっても柔軟に対応できるよう、受容力、相談力を鍛えておいてほしい。
何でも、積極的に取り組む事と現時点で無駄と思う事が将来役立つことを理解して活動する事。
何に重きを置いて医師生活を送るのか、ということくらいでしょうか。ただし、仕事についても自分の人生についても、学生の時点で想像出来ることは限られており、また自分の生活状況や希望、医療体制や制度もその都度変化しますので、あれこれ悩まずに学生生活を楽しんでおくことも大切で、対応力(レジリエンス)を鍛えておくくらいが、共通してやっておけることかなと思いました。
何のために医師になるのかを考えて欲しい。働くことは苦労だけではなく、患者さんのためになるし自分の人生のためにもなります。そして苦労をしてでも医師として働いている若いママ女医さんたちを見てみると、とても頼もしいし、こちらも励みになります。また、男性医師の理解が高いと配偶者（医師に関わらず）が働くことにつながるので、男性医師の教育もとても大事だと思います。医師と結婚したら妻は専業主婦、はもったいないと思います。夫婦で稼ぐことをおすすめします。
何をするのが自分が一番楽しいか知っておくといいいと思います。
何をやりたいのか、しっかり考えること。
何を重視したいか。QOLなのか、興味のある分野で働くことなのか。医師という仕事は思った以上に、知識より体力と忍耐が必要です。頑張ってください。
何を大切にしたいかによりやるべきことも変わるので、色々な物事を見聞きして、悔いなく過ごせばよいと思います
何を優先するか考えておくこと
何科になりたいとかではなく、将来どういう医師になりたいかを考えておく。
何科に行くか、どの病院に勤務するか、収入がいくらかなどは些末な話です。何をきっかけにして医者になろうと思ったかも人それぞれだと思います(親が医者だからとか)ので、それも重要ではないのです。できれば、これからせつかく医師になるなら社会でどんな役割を果たしたいか、どんな世の中になって欲しいかを中心に考えてほしいと思います。それが学生の間を考えるべきことです。人は社会とは切っても切れません。医療は社会共通資本です。自分の達成したい自分が理想とする世の中(社会)に対して、何が出来るかを考えれば、極論を言えば医師である必要性も無いかもしれません。あなたが、例えば救急医を目指しているとします。交通死亡事故を減らそうと頑張っている、自動運転システムを作っている人達も、最終的には救急で搬送される患者を減らすはずで、どのレベルで人を救うかだけです。どのリングも切れずにつながっていく事が人を救います。色々な視点を持ってほしいと思います。医療を入り口にして、できれば社会の幸福に貢献してほしいと思います。
何事にも興味を持つこと、中断する時期があったとしてもあきらめずに続ける力を持ち続けることが医療人として働くうえで不可欠な要素です。また、患者さんや医療スタッフには様々な背景を持っている人がおり、その方々と対峙するあるいはチームとなって働いていかなければなりません。学生の間はいろいろな年代、背景の人と交流しコミュニケーション力を培うことも必要だと感じます。
何事もやりとげる力を磨くこと
何年目で専門医師兼を受けるのか、結婚時期、出産時期などを、たくさんの先輩医師に聞いて、人生設計をしておいたほうがよいと思います。
価値観とは何かをよく考える
家族が幸せでなければ、医師として、決していい仕事はできない。時間的に余裕のある学生の間に、まず家族を幸せにするにはどうすればよいかを考えてから、医師としての知識や技術の習得に努めてもらいたい。

家族での役割分担、親等を含む育児の協力者を誰にするかを考えて、職業、職場を選ぶこと
家族やパートナーと働き方、生き方について考えを常々共有すること
家庭や育児など悩むことも多いですが、女性も好きな科に進むことは大事だと思います。
架空でもよいのでサブスペシャリティを決めた後のキャリアを具体的に知っておけば、人生プラン（女性なら出産）のタイミングを意識できるかもしれない。診療以外に学術活動を伴うことを知っておけば、論文の書き方や発表スライドの作り方などを勉強しておけばよい。
悔いのない学生生活を送ること
外科系を志すなら、最初の数年間は技術と知識の習得に専念できるよう考えておく。
学生の6年間で覚悟を決めましょう。
学生のうちから、多少なりとも、プライベートを犠牲にする覚悟がほしい。
学生のうちから家庭との両立が難しい現実を考えると、多忙な診療科を回避する保守的な選択になってしまう。希望の診療科に進んでからその中で両立できるような制度にしてほしい。
学生のうちに、医師としての多様な働き方の現場を見ておくこと。大学病院や研修病院だけでなく、保健所や検疫などの行政機関、刑務所や少年院や鑑別所など矯正機関、健診機関、介護施設や障害者支援施設、国際医療協力NGO、産業医など。
学生のうちにしかできない経験をする。医学以外の社会経験を出来るだけする
"学生のうちによく遊ぶ
自分のやりたい診療科について調べ、悩んでおく"
学生のときには、目の前の国家試験をどう突破するかとか、研修病院をどうするかとか、専門科をどうするかとか、目の前のことで頭がいっぱいになると思いますが、できれば、自分の人生をどう生きたいかとかについて、なんとなくでも考えておくといいと思います。実現できないは別として、ライフイベントを時系列に書き出し、卒業年から考え、何歳で結婚、何歳で一人目出産し育休をとるのかとらないのか、いつ専門医資格をとるか。それだけでなく、もっと太枠として、留学なども含めて第一線でバリバリ働きたいのか、パート的で働くのでもいいのかなど考えたときに、そもそも結婚がしたいのか、したくないのか、子供はほしいのか、ほしくないのかなど考え、結婚がしたいのであれば、自分の希望のキャリアを歩むには、どういったパートナーを見つけるのがいいのかなど、難しいかもしれませんが、周りの先輩女医さんをみて、考えるのがいいかと思います。
学生の間に考えておくべきこと...あまりないように思います(笑)あれこれ考えていても現実には流動的です。何科に行くのか、職場の人はどんな人か、いつ結婚するか、いつ子供ができるか、どこへ転職になるか...ある程度は流れの中で決まっていくので、あれこれ考えていても思った通りにならないことの方が多く、柔軟に対応していくことが大事です。なので、学生の間にいろいろなことを経験してみて柔軟性を養うのはいいかもしれません。部活、バイト、留学、研究、旅行、趣味などいろいろなことに意欲的に挑戦してみると視野が広がるのではないのでしょうか。困難なことにはぶつかっても、一生懸命どうしたらいいか考えるとおのずと道は開けると思っています。私も現在、ワークライフバランスに揺れている真っ只中ですが、何か良い方法は必ずあると思って模索しています。4年生で研究を発案すれば素晴らしいですね！よい経験、成果になりますことを祈っています。
学生の今しか出来ないことを思いっきり楽しんで下さい。いろんな経験をして下さい。
学生の時期に、学生の時期でしかできない遊びを十分に経験するべきである。
学生へのメッセージ：とにかくペーパーレスに徹して、紙の書籍を使わずに勉強する癖をつけること 実臨床で書籍を引っ張っている余裕はない
学生へのメッセージ：大学入試に向けて先取り学修が有利なように、入学してからは医師になるための先取り学修をしたほうが有利なので、そこそこ勉強した方が良いでしょう。一方で、現場ではメンタル不調の若手医師が増えているため、あまり無理をしないで欲しい。
学生結婚、出産をおすすめする。
学生結婚も選択肢に入れてよいと思います。型にはまったりせず、自由に自分のために選択して行ってください。
学生時代にきちんと遊んで、遊びは学生時代に終えること。どの講義資料が先々必要になるかわからないので、講義資料だけはきちんと保管しておくこと。教科書は改訂されるので不要になることがある。
学生時代にバイトや旅行など、働き出してからではできないことをたくさんしてほしい
学生時代は学生生活に真剣に向き合いながら満喫し、医師になれば仕事に真剣に向き合う
学部最終年に大学教授から専門分野の選定は、配偶者を選ぶことより重要な決断と教えられた。その発言の意図は、離婚は慰謝料で済むこと、専門領域の変更は年数（再研修に必要な時間）で支払わなくてはならない。とのことでした。
学部時代は画一的な道筋が示されるが、実際医師になってみるとキャリアの選択肢は思った以上に幅広いと感じます。大学内/学外実習中やOB訪問などで様々なキャリアの方をみると視野が広く取れて良いように感じます。
楽しいと思えることをすれば充実して働けると思っています。ネガティブなことを排除して選択していくのではなく、ポジティブに感じることを選択していけばいいかと思っています。
完璧な職場はないと思います。良いこと、悪いことをたくさん経験して将来に活かしてください。
患者とのコミュニケーションを大事に、なので学生の時は特に何も、です
どんな勉強方法よりも患者が一番の先生です。"
患者様と話し診察することが何より大切である。患者様とコミュニケーションを恐れずに行えるように実習時にしっかりと接することが大切と思う。
患者様のため、医療の発展のため、働ける、医療ができる嬉しさを感じ続けてください

頑張ってください。
頑張らなくてもいいと思う。まずは自分（と家族・家庭）の心と身体の健康を第一に考えましょう。
希望する診療科での働き方の情報収集は必要。
希望科をある程度絞り、それが検討できる研修施設を考える。
将来の専門医やライフスタイルがイメージ出来ればいいのかもしれないが、結局目先のことをしっかり考えることしか出来ないかとも思う。"
求められる仕事は日々変化していくので、常に成長していける力を身に付けてほしい。
結婚・出産は人生の大きなイベントであり、通過点と考えるべきかもしれませんが、人によっては經由すらしないところかもしれません。結局のところ、医師としてのキャリアの大きな目標ができてくるなかで、自身のライフスタイルの変化も受け入れて、よい落としどころを探るしかないのでは。そのためにどこまで社会、職場、家族の協力が得られるかどうかであり、時代とともに僅かには改善している感じはしています。みんな心配しながらも、何とかなっている気はします。"
給料をいただいているので、責任をもって働かなくてははいけない。普通の企業で首になるような働き方はしてはいけない。
教育機関で働く医師は、教育・研究・診療をバランスよく行っていくことが求められること。働き方改革においては、診療は労働時間に含まれるが、研究は労働時間外にカウントされる。
興味あることに真摯に取り組む。単に楽をしようと思わない。
興味のあること・やりたいことを見つけることと思います
興味のある分野を見つけておき、モデルとなるような医師から話をきいたりしてアドバイスをもらったりするとイメージしやすいと思います。時間がある学生時代に医療以外のこと、語学や料理、生活全般の知識など視野を広げておくのも大事です。
勤務とプライベートのバランスを保つことが何より大切。
勤務先によるでしょうがどの科も多忙です。育児にも大きく時間、体力を消費します。各々が理想と思えるほどの職場環境や家族に恵まれる可能性はそう高くないと思うので働き方や科の選び方は慎重に行うことをお勧めします。
勤務地、居住地、結婚するならば相手の仕事や親族の事情も含めて、実際にやってみるまで分からないことも多いです。自分の希望や目標をしっかり見つけて頑張ってください
金銭感覚。楽観主義と悲観主義の両立。適度に手を抜くことの大切さ。医者・病院内には「常識」がないことを自覚すること。
具体的な5年後、10年後の自画像をできるだけ明確に描けるよう学生時代から情報を収集してもらいたい。
計画を立てても結婚出産だけでなくその他の家族や自身の病気など予定通りに行かないことや予想できないことは起こるので、どうなってもよいようにできるときにできることをしておくのが良いと思う。
結婚・出産についての悩みについては尽きないと思うが、どの科に入局しても、子育てが落ち着くまでは大変なことには変わらない。40代、50代、60代と数十年先まで見据えて、長い将来自分がどのように働いていきたいか、一度考えてみるのも良いと思う。
結婚・出産を見据えて夫婦共働きのキャリアを希望するならば具体的な人生設計が必要です。特に幼少期の子育ての苦労をした共働きの先輩医師の話は参考になるとと思います（幻滅もあるかもしれませんが）。
結婚、子育てなども含めて、医師としての人生設計をすべきだとおもう。子育てするならば実家の近くが好ましいと思う。
結婚、出産のタイミングは漠然とで良いので考えていた方がいい
結婚、出産を希望するならば、あらかじめ人生計画を立てておく。卵子は老化することを意識する。
結婚、出産を考えているのであれば、具体的にライフプランを考えておくこと。
結婚しようがしなかるうが、出産しようがしまいが、介護しようがしまいが、どういう人生であっても、医師という仕事はとてもしっかりとやりがいのある尊い仕事であると断言します。
働き出しても悩みはつきませんが、是非どういう形であれ仕事を続けてほしいと思います。"
結婚するということ、仕事を続けること、どちらも相手や周囲があって成立することです。環境や条件は様々で、計画通りにならないことも多いですが、意欲、意識を高く、アンテナを張って進めて下さい。
結婚するとしたら、それぞれのキャリアを尊重してくれる人と結婚すること
結婚や育児の時期は選べるものでもありません。出会いのタイミングも、人それぞれでしょう。医師というキャリアを考えると、科によって異なるとは思いますが、どの時期でも「どのように専門医を取得するか」を考えてパートナーと相談し勤務内容を相談していくことは、働き方の選択肢を広げる手段として知っておいていただきたいと思っています。例えば出産の前後にやりくりして専門医取得できた場合と、うまくいかず専門医取得ゼロの場合とでは、その後の勤務先の選択肢が変わってくる場合があります。
さまざまな働き方があります。育児中は育児に専念し子育てひと段落後に常勤に戻った先生もおられますし、出産後まもなく復帰した先生もおられます。歯科残念ながら、多くの現場を離れる選択をした先輩後輩も見てきました。生活スタイルにあわせた働き方で臨機応変に仕事量を調整し仕事している先生もいますが、全員が思ったような働き方を選んでいるわけではありません。よい相談相手を見つけ、多様な働き方が男女関係なく選べる世の中になれば、と願っています。いまは、全員が時間外までがんばる、という状況が多く、まだまだ改善の必要があります。
常勤を離れざるを得なかった別の職場の先生から、「ほんとうは常勤で続けたかった、夫も育休を相談し

<p>たが取得できなかった。夫の育休1ヶ月義務化を！」と言われたことを、しばしば思い出します。長文失礼しました。少しでもお役に立てば幸いです。”</p>
<p>結婚や出産のことを考えてあれこれ準備するよりも、今一番やりたいことを全力でやるべきだと思います。自分は将来を考慮して少しセーブしてしまった部分もあり、反省しているので。ライフイベントにより、やりたいことができなくなる将来もあり得ますが、その時にいくらでもほかの道もあります。一緒に頑張っていきましょう。</p>
<p>結婚や出産の時期、診療科の選択は大事。</p>
<p>また、職場の雰囲気（どのような進路をとっている人が多いのかなど）リサーチも。</p>
<p>フルで働きたいのか、非常勤が良いのか、</p>
<p>いつでもキャリア変更は可能と思うが、専門医や医学博士を目指すなら覚悟を持ってせめて下積み期は頑張らないと難しいと思う。”</p>
<p>結婚や出産はもちろん大切で経験できたらしたらいいと思うが、プロとしてやっていくためには一時期仕事に没頭して頑張る時期が必要だと思います。最終的には自分の知識や能力が自分を助けてくれるので。</p>
<p>結婚を考える相手がいるなら、選択する専門科を先に話し合っておくことを、お勧めします。</p>
<p>結婚含めた人生プランの設計が大切だと思います</p>
<p>結婚出産により休職したり働き方が多数あると思うので、女性医師の働き方や育児との両立の仕方について聞いてイメージを膨らませたり、選択肢を考えておくとうまいと思います。</p>
<p>結婚出産は、あれこれ考える前に動け。産むなら産む、くらいのシンプルな考えだけでいい。結局ベストタイミングというものは無い。</p>
<p>研修先の病院が症例専門医に限らずどのようなサブスペシャリティーが取得できるのか調べておくのが良いと思います</p>
<p>研修先は大事。どこを選ぶにしても適当に選んでいる時点で、どういう基準でえらんでいるのか明確になってないことを自覚するとよいと思います。</p>
<p>元気なうちに育児をした方が楽しめる大学院生になって、出産育児を両立させる女医が増加中</p>
<p>現在の大学病院の勤務条件が酷すぎて医師になることを勧められない</p>
<p>現実にいるいろいろな医師の働き方に出来るだけたくさん触れること。</p>
<p>輝いている人、頑張っている人、出来る人、目立つ人ばかり目に入りがちですが、目立たないところでいろいろなことをして生きている医師が実はたくさんいることをもっと早く知っていたら、自分の生き方に選択肢が増えて苦しい思いをせずに済んだと思う。”</p>
<p>現状日本では仕事と家庭はどちらかしか優先できない。どちらを優先したいかしっかり考えて覚悟して専門科や働き方を考える必要があると思う。</p>
<p>個人的な経験からの考えではありますが、進みたい診療分野は早めに決めておいた方が、それ以外の分野を一生懸命学ぶモチベーションになると思います。自分が選択しない分野は、学生や研修医の頃に接しておかないとその後学ぶ機会が激減してしまうからです。</p>
<p>固定観念を持たず、仕事、プライベートの両立を考えてください</p>
<p>交友関係を広げること</p>
<p>公私とも充実した生活を送るにはそれ相応の努力が必要。ワークライフバランスをとると言うことは決して「楽ができる」ということではない。</p>
<p>好きこそ物の上手なれ、好きな仕事をしていたら苦にならない。</p>
<p>好きな科を選べばいいと思います。</p>
<p>好きな分野で自分が面白いと思えることは、例えしんどくても頑張れると思うので、アンテナを広くして、医学の中でも、自分が好きな分野を見つけてください。また、若いうちはいろんなことを吸収する時期ですので、少ししんどくてもちょっと頑張って働いた方がいいと思います。</p>
<p>広い視野を育てたいです</p>
<p>広く真剣に学んで、学問として魅力を感じられる診療科を確認しておくとうまいと思います。働き方はいつでも修正が効きますが、学問として広く多くの分野を学べるのは学生時代のみだと思うので。</p>
<p>広く勉強することが大切だと思います。また海外旅行など、行けるうちにいった方がいいです。医師は長期休みが取りにくいので。</p>
<p>考えすぎない（未来はどうなるかわからない）</p>
<p>考えておくべきことではない。今したいことをやればよい。</p>
<p>考えておくべきことは別にないかなと思います。</p>
<p>考えることかと思えます。病態へのアプローチ、重要なIC、DNAR取得、予後宣告、など、医療ではないことがこれから多く出てきます。その際に、自分の考え方がないと、一向に進まない、周囲との連携がうまくいかない、患者との信頼関係が、などいろいろ置きます。医療は勉強すればできるようになりますが、これらは常に、自分だったらどうするか、何が出来るか、どうしたいか、を考えることが大切かと思えます。</p>
<p>考えるべきことは特にないですが、働き始めると自由が減るので、学生の間にはしっかり学びしっかり遊び倒すのをおすすめします。将来仕事も家庭も充実させたいと考えるなら、日常生活が自立した相手を見つけるのは大事だと思います。パートナーの協力がどのくらい得られるかで(大げさですが)どう生きていけるかが左右されると思えます。</p>
<p>国家試験合格のためではなく、医師になったあとのことを想定して勉強しておくことを勧めます。</p>
<p>今のうちにたくさん遊びましょう。また、遊び方を覚えましょう。</p>

今のやりたいことも大事だが、自分にとって無理ない生活が続けられることも大事です。
今の時代なら、女性なら生涯医師として働く信念を持つこと、男性なら女性が医師として働き続けることが、日本の将来には不可欠であることを正しく認識すること
今やりたいこととやるべきことのバランスを取ってください。
今をきちんと楽しむ。
最も自分にとって大切にしたいことは何か
最後は自分自身が医師という職業に携わる強い意志が重要と思います。頑張ってください。
最終的に目指す医師像を明確にイメージして研修先・入局先を選択してほしい。先輩が優しいとか、必要とされてるとかで決めて欲しくない。自分の意志を大事にしてください。
昨今ホワイトに働くことが騒がれている今、非常に働きやすくなったと感じる。逆にその立場を下の世代が利用しすぎて、上が配慮しすぎる時代にもなっている。どこまでが厚かましくないかという線引きが非常にわかりづらくなってきているので、自分だけの立場でなく、相手の立場にたつということは今一度知っておくべきだし、いろんな立場の人と触れ合うべき。
仕事、結婚、出産に対する考え方について、学生の時から一貫することはまずないだろうと思います。自分の考えが変わっても、柔軟に対応できるようにするには、道を早いうちから狭めることなく広く知識をためていくのが重要かと思っています。
仕事が始まると責任も義務も出てくるので、今の間に悔いのないような時間の使い方をしたほうがいいと思います。
仕事とプライベートの両立を、パートナーとしっかり話し合える環境を作ること、また話し合える人とパートナーになること。
女性が育児や家事を中心に担うことがまだまだ気持ちの上では常識化しており、夫に任せて残業や当直をすれば「旦那さんは大変だね。偉いね」と言われるが、男性が同様な働き方をしても当たり前のように感じられている。仕事や家事・育児については家庭内での問題なので、お互い納得いくように話し合うことが必要と思う。
片方だけがキャリアを中断し諦めざるをえないような関係性は歪だと感じる。
また女性医師は時短勤務や当直免除をしておけばいいだろうという、安易な対策では根本的な問題は解決しない。出産がない男性医師についても、また子どもがいない医師についても働き方を見直すことで、育児だけではなく介護や自分の病気についても仕事を諦める必要がなくなるのでは。
学生へ：医師育成には時間も費用もかかっており、仕事を継続するという覚悟を持って欲しい。女子学生が「結婚や出産を考えると、緊急や夜あまり呼ばれないところに行きたい」と口にするところがあるが、結婚や出産が予定通りあるわけではないので、情熱を持って勉強を続けることができる科を選択して欲しい。自分のキャリアをしっかりと形成して欲しい。"
仕事と家族の両方を大切にすること
仕事と家庭のバランスを決めておくことよい
仕事のやりがいとはなにか、を自分に問いかけること。
仕事の大変さというよりは、医師になって自分が何を行いたいかを考える。子育て特に女性の働く制度はまだまだ不十分です。フルタイム働けないと常勤扱いにならないなど。施設によって差があると思うのでそういう面も調べた方がいいかもしれません。
仕事の量はライフサイクルで変化してとうぜんであり、自身の人生も大事にしなが、長く医師として活躍してほしい。学生の間、いろいろな人と出会って、いろいろな価値観や考え方があることを学ぶといいと思います。
仕事をするものの充実感を、お金を儲けるということとは切り離して考える思考を持つ必要があります。時間のかかることも積極的にトライし乗り越える精神力も必要です。医師になった時点で社会の一員として社会を回すリーダーになるという重要任務を自覚するべきだと思います。
仕事をすることは生きていくことです。
仕事を続けるには、家族の協力や職場な協力が大事です。
仕事環境や生活環境は常に流動的であり、世の中の状況（今は働き方という考えがもてはやされている）も変わるため、自分がやりたい職業・分野を選択すべきです。妥協すると、つらい時期や努力すべき時期に継続が難しくなると思います。
子どもをつくるのであれば実家の位置と勤務病院の位置はキャリアパスに影響するよ
子育ての大変さや仕事との両立による疲弊は知る必要はありません。ただし、相手の身になってお互いをサポートし合うことの大切さはイメージしておくともいいかもしれません。
子供は親の仕事内容に興味を持ちます。誇れる仕事、仕事内容を見つけていただきたいです
志望する科のキャリアの見直し
育児や介護で離れた後の復帰について
支援制度の提示"
志望する科の先生方のプライベートをよく見て、なりたいイメージに合う科を選択することが大切だと思います。
支援に協力的な医局選びが必要
死ぬほど働けるから学生の間は遊べば良い
私が学生時代であった10年前と現在では、医師の働き方は随分変わっていると思います。
医師の働き方は世代全体で少しずつ変えていくことが可能だと思います。
健康に気を付けて、元気に働いてください。"

<p>私は将来像についてあまりしっかり考えていなかったのも、これといってメッセージを送るようなことはないかもしれません。どのような医師になりたいのか、勤務医でいいのか、開業したいのか、研究したいのか、大学院進学は？留学は？など、ある程度ビジョンがあった方が人生設計しやすいのかもしれないなと思いました。医局？の先輩に話を聞いてみるのもいいと思います。実際には運命はタイミングによるので、突然のチャンスが来て選択を迫られたときにどうしたいか、その時に自分がどうしたいか判断できるように芯のようなものはあった方がいいかもしれませんね。仕事にしても家庭にしても。</p>
<p>私も医学生の際に問題意識を抱いているいろいろ調べたことを思い出しました。ワークライフバランス講演会などで心に残った先輩たちのアドバイスは、「パートナーを選ぶ際は、相手より相手の親を見ること」でした。自分の生き方や働き方について、配偶者はもとより配偶者の両親が理解し協力してもらえるかどうか？は重要です。またそういった周囲のサポーターと良好な関係性を維持して子育てをできるかどうか、特にベビーシッターやファミリーサポート体制が充実していない過疎地で地域医療を行う際には重要です。</p>
<p>また、「他人と自分を比べないこと」「100%をもとめすぎないこと」「周囲に助けを求めること」が個人のキャリア形成には重要だと思います。</p>
<p>今、自分にできることは何か？を考え、できることに意識を集中する。自分の仕事を「量」「時間数」のみで評価しないで、自分を認められるほかの評価基準を持つことです。例えば、短時間勤務等で1日のうち5人の診察を行ったとすれば、「周りの医師は30人以上患者を診ているのに自分は5人しか診られていない」と考えるより、「自分は今日、5人の人の健康を支えることができた。忙しい医師よりもフランクに丁寧に医療面接をすることができた」などとらえ方を変えることです。</p>
<p>仕事も家庭もどちらも100%を求めて両立しようとする、いつしか無理が来てバランス棒が折れてしまいます。ワークライフバランスではなく、ワークとライフを統合すること（仕事は家庭の、家庭は仕事の役に立つと思えば柔軟に考え動くこと）が長くゆるくやっていける秘訣だと思います。必要な時は恥も外聞も捨てて周囲に助けを求め、自分で打ち明けないと周囲は何をどうしてあげたらいいかわからない。困っていること、助けてほしいことを誠意をもって周囲に伝えることがキャリアを拓くカギになると思います。</p>
<p>学生のうちにできることいいことは「自分を俯瞰してみられるメタ認知」「自分で選択し、その責任を持つこと」などの意識づけでしょうか。女性の場合は、日本のジェンダー観に支配されて相手に合わせようとしすぎていないか、今一度自分の行動や志向を見直すこともお勧めします。"</p>
<p>私自身も学生の頃からキャリアと出産・育児が同じ時期に当たることでどうしたらいいのだろうと悩んでいました。私は比較的結婚・出産が早い方だと思いますが、日中自分にできることをしっかりすることで、仕事も充実していると感じています。もちろん、職場の理解があってこそできることです。</p>
<p>働き出して、医師としての人生は子育てより長く、気長にやれば子育てを終わった後に始められることもあるのだと思うようになりました。キャリアを積んだ後に子供を生みたくなっても妊娠できなければ授けられないよと言われ納得できたので、今は毎日大変ですが子供を早めに産むことができ良かったなと思っています。</p>
<p>子育てを早い年齢からするのであれば家族の助けは必須だと思います。1歳の頃はしょっちゅう熱を出します。自分の親に近いところで子育てをしたほうが気持ちとしては楽だと思うので、もし将来の旦那さんになりそうな方の理解があれば、考えてみるといいかもしれません。"</p>
<p>視野を狭めずに学んでください</p>
<p>視野を広く持ってほしいと思います。働き方一つではないので、生涯学習を見据え柔軟に考えることで、より自分にあった過ごし方ができるのではないのでしょうか。</p>
<p>時間があって人気の診療科がいいと思います</p>
<p>時間を有効に使う習慣を身に付けること</p>
<p>時代によって医師の在り方が変化しているので、時代にあった立派な医師を志してほしいです。</p>
<p>自らが進もうとしている道は、専門職であり、技術職でもあること（しかも、人の命を扱う）を十分に自覚していただきたいです。</p>
<p>個人の資質により差はありますが、一定期間はいわゆる「修業期間」が必要です。</p>
<p>人の命、健康が関わっている以上、働き方改革等で医師の勤務も交代制になったとしても、それはみんなが同レベルの医療水準を維持できて、責任感も同じレベルで共有できなければ成り立ちません。"</p>
<p>自覚を持つ</p>
<p>自己の幸福ももちろん大事ですが、奉仕の精神を放棄してはならないと思います。</p>
<p>自身のライフプランをある程度立てておく。キャリアを積むことも大事であるが、ある程度余裕のあるプランをたてることも大事である。</p>
<p>自分、配偶者が休職、復職する可能性を見越して職場の休職制度、復職サポート体制の調査はしておいて損はないと思います。</p>
<p>自分がどうしたいかを考える</p>
<p>自分がどうしたら充実していると感じるか、ということを考えておくべき。一般病院で臨床にどっぷりつかるとのいい人もいるし、大学病院で研究をバリバリするのがいい人もいるし、臨床研修指定病院で先輩の指導に力を注ぐことがいい人もいます。自分がどうしたいかを考えておく。ただ、その状況になってみると、考えも変わってくることもあると思うのでその点は注意しておくべき点です。</p>
<p>自分がどう言うスタンスで患者さんと接したいか、そのスタンスを貫くために必要な自分のスキルや働き方はどういったことなのか</p>
<p>自分がどこでどう仕事をしたいか明確なビジョンを早く持つこと。パートナーに求めることを明確にすること。</p>

自分がどのようなライフプランを送りたいか、仕事と人生のバランスをどのようにとっていきたいか、ということを実段階から考えることが非常に大事だと思います。
特に女性の場合、出産すると自身の働き方や何に重きを置くかが大きく変化することが多いと思います。何年目までは死に物狂いで頑張る、出産から〇〇年くらいは家庭を中心に...などその時の自分にあった働き方で...によりも完全にやめるのではなく、外来のみとか時短勤務でもいいので、医療を続けることが少しでも医療界全体の負担軽減にもつながるのではないかと思います。
自分は産後復職したときに、子供が頻回に発熱し呼び出され仕事に穴をあけることも多く、救急や当直は免除していただいて仕事を継続することができましたが、常に常勤の先生方に迷惑をかけている中途半端な自分の存在がとても苦しい時期がありました。しかし、当時の上司に、「先生がいなかったら、1の仕事全部が自分たちに降ってくるけど、0.7でも0.5でもいてくれることで、自分たちも負担軽減ができていよ」と言っていたので、その時の自分にできることをできるだけ一生懸命やっていたことと大変当時の上司には感謝しました。
その時に言葉が今の自分の働き方の支えになっています。"
自分がどのような医師になりたいかを、よく考えて医師になったら妥協せずに実践してもらいたい。
自分がどのような生活を送りたいか考えた上で診療科を選ぶことも大事だと思います。
自分がどんな医師として生きていきたいかを考える（それを尊重してくれる配偶者を見つける）
自分がどんな業務なら続けていけるか適性などを考えておいた方がよい
自分がどんな仕事をしたいのか具体的にイメージできているとよいと思います。
自分がやりたい科を選ぶのが1番後悔がないと思う。どこを選んでも大変。出産のタイミングに正解はない。仕事ではその時のベストを尽くして、子どもの人数から逆算して出産したらいいと思う。
自分が医師を志した正直な理由がその答えだと思います
自分が何をしたいのか、そのために今何をすべきなのか、将来のビジョンを考えつつ目の前のことに地道に取り組むこと
自分が患者に社会に何ができるかが最重要である
自分が興味を持ったことを最後まで突き詰めることが充実感にも繋がると思います。
自分が将来どういった分野に進むかはそのタイミングにならないとわからないが、どういった分野があるのかを知らなければ、その時に悩む候補にもならないため、学生時はできるだけ多くの分野について学び、触れることが大切だと思う。
自分が将来やりたいことを最初から無理に絞り出して決めておく必要はない。ぼんやりと「何となくいきたい方向」だけ意識しておいて、あとは学ぶチャンスがあれば何にでも飛びつく姿勢が大事と思う。学生の頃に感じたぼんやりとした「希望」は、実は本人にとって本質的な願望である可能性も高いので、卒業しても大事に覚えていて欲しいと思う。
自分が真にやりたいことを見つける努力が必要
自分が進みたい医者としての方向性を確立しておくこと
自分が本当に好きな分野は何なのか考えておいた方がよいと思います。
自分が理想とし守るべき生き方を考えること。少しでも理想に近づけるよう努力すること。
自分で面白いと思える分野を見つけてください。
自分にとってやりがいがあると思える分野を具体的に早く見つけて進んでいくことが大事なと思います。そのためにも、診療科の選択は消去法ではなく、自分が一番おもしろいと思ったところを積極的に選ぶべきです。ライブイベントのときの働き方はまたそのときに考えればよいです。一生懸命やれば、周囲からの支援も受けやすくなると思います。
自分に向いている専門科を見つけること。個人的には、最も人間関係を重視して病院や専門科を見つけることが重要だと感じております。
自分のキャラクターを把握する。忙しくてもやりがい重視なのか、体力・精神的に無理できないのか。
自分のキャリアパスを意識し、理想とする先輩医師を見つけておくこと。
自分のキャリアプラン（専門とする科だけではなく医師としてのトレーニングプランや活動）、または個人の人生プラン（結婚やプライベートの活動など）を早めに考えることがよいと思います。
自分のキャリア形成をどうしたいか、ある程度考えておく。
ただ、実際にはいろいろなことがあるので、その都度よく考えて選択する。"
自分のやりたいことを見つけれられるように豊かな学生生活を送って下さい
自分のやりたいことを信念をもってやりつづけければ、周囲には認めてもらえると思います。自分の言い分だけを自己主張するだけではなく、周囲の言葉にも耳を傾けて、よいコミュニケーションをとれるように、コミュカを付けておいてください。
自分のライフスタイルに合った配偶者を選ぶこと 相手に無理強いはいできないため
自分の意見・ビジョンをしっかり持つておくべき
自分の興味があることをいくつか見つけそれに向けて目標を立てて準備すること。好きなことであれば自発的、自律的に仕事をする事が出来るし、楽しく取り組むことができる。ただし、若いうちはあまりに自己の可能性を限定せず、柔軟に対応することも重要です。
自分の個性が医師としてどう生かせるのか、また自分の価値観を見定めておくと、将来どのような環境に流されたとしても与えられた場所での意義に働けると思います
自分の好きなことをやりましょう。医師はそれでも食べて行ける数少ない職業の一つだと思います。
自分の将来を、頻回にイメージすることが大切で
自分の将来像をイメージすること 「できること」と「やりたいこと」が乖離する時期があっても、最

終的な目標を見失わないことが大切
自分の進みたい科に合った研修先を選ぶこと
自分の人生でやりたいことの優先順位を考え続けること。
自分の人生と医師としての信念、天秤にかけざるをえない場面があることを良く意識して情報収集をするといでしょう。
自分もそうでしたが、ポリクリを回っても医師がどのような日常を送っているのか、自分が将来どのように働いているのかのイメージが湧かないのが医師の特徴です。
先輩が何時に出勤して何時に帰っているのか、そういったことの情報収集をすると有益に思います。
自分が思い描いている医師像にとらわれ過ぎると良くないです。医師も働き方は多様化しているので、必ずしも厳しい働き方を自分から選択しないでも良いはずですが。
タスクシフト、シフト勤務など、いろいろ精度が整うと良いですね。頑張ってください。
自分の人生のプライオリティを考え、その価値観を共有あるいは理解する人と歩む
自分の性格、人生の意味、生きがいについて考えておくべきだと思います。自分もまだ不十分ですが。
自分の適性と、興味、サポート体制 興味ある人とたくさん会って話を聞く
自分の適性を見極めておくこと、趣味を持っておくこと
自分の特性に合った科を選ぶ
自分の特性を知って、視野をひろげる。
自分の能力（良い点や悪い点）や性格を知り、無理をしないやり方を選択していく。
自分の理想と、自分は何に重きを置いている(仕事、家庭、業績など)性格なのかを知っておくようにするべきだと思います(もちろん働き出して変化すると思いますが)。
自分の理想の人生モデルを見つけてその先生に話を聞いておくこと良いと思います。
自分はどういう働き方をしたいのか、家族の支援がどれくらい受けられそうなのか、ファミリーサポートやベビーシッター等使いたいのか考えることが大事だと思います。働き方によっては、進む科も変わると思います。まずはロールモデルとなる人を何人か見つけること、キャリアを相談できる人を作るのも大事なことだと思います。育児で仕事を重きを置けなくなる時期もありますが、一時であってモチベーションがあれば、遅れながらもキャリア形成は可能です。これは女性に限らず、男性医師も育児中は家庭重視できるような働き方もできるようにならないといけないと思います。勤務し始めて大変なことも多いと思いますが、一緒に頑張りましょう。
自分以外の他人の気持ちを考えること
自分自身が医師になることを選択したのは何によったかということについていつも思いだして、医師になったら自分はどのような仕事していくのか、どのように生きていくのかを、情報収集、他者や社会と積極的に関わり、学生の間でしかできない体験を通じて、時間・瞬間を大切にしてください。医学部に入学するまでの間にも、成長や発達の過程で、様々な困難や体験が個人個人にあったと思いますが、医師は他者を理解すること、自分自身も理解することが大事だと思いますので、精神心理、認知行動、行動科学などの領域を学んでおくことが職業社会での自己実現に役立つのではないかと思います(私は50歳を過ぎてやっとこの領域のことを学ぶようになり、自分が毎年成長できていると感じています)。伝えたいことはたくさんありますが、「正直であること」、「誠実であること」、そして「行動すること」を贈る言葉にさせていただきます。医師になられたら、同じ医療の現場でいつかどこかで一緒に仕事する偶然、ご縁、幸運がありましたらどうぞよろしくお願いします。
実習や研修で自分に合った科を探して、一番興味のある診療科へ進むのが一番大事だと思います。
社会から求められている部門に進んでください
社会が一番必要とされている科を選んでほしいと思います。
社会人としての素養を早く身につけておく
若いうちに、少し大変なこと、しんどいことを経験しておく方が良い。しんどいことほど、先延ばしせず、その時にしてしまう。
若いうちに苦労した方が良いかなと思います
若いうちに研究・臨床力をつける(努力を惜しまない)。効率の良い働き方を身に着ける。
若いときから自分のQOLにこだわらず、学び続けること。
若い時に一流を見ておくこと、自分で考える力を付けておくこと
若い時は今しかありません 自分のしたいことを十分に楽しんでください
若い時期は多少無理をして勤務、勉強してもいいと思いますが、家庭をもつタイミングでは仕事と家庭の両立を考えてくれる職場での勤務形態を考えなければならないと思います。
趣味を大事にすること
受験で他の人を蹴落として医学部に入学し医師となったので、極力やめることはせず、何かの形で医療に貢献していくという意識を持つことは大切であるように思います。自分のプライベートとの両立で苦しくなることは多々ありますが、なんとかギリギリこの意識で続けられています
充実して働くためには家庭の安定が必要である。愛をもって家庭を育むことを、常に目指すべきである。
出産後は家族のサポートが十分でない限り、仕事や勉強を思い通りにするのは難しくなるため、時間がある学生のうちにたくさん勉強や経験をして将来に備え将来の選択肢を広げられるよう考えた方がいい。
後悔しないように過ごしてください。"
初期研修ではしっかり総合内科的な学修を。その中で自分に適した分野を考えてほしい。
諸外国の現状

学生さんへ：医師は働くことが生きがいに直結し、かつ収入にも繋がる素晴らしい職業です。”
女性で出産、育児を両立させたいのであればよく考えるべき。
女性と男性は体のつくりが違うため、Strong point が違います。Strong point が違う相手と同じ視点で競ってはおもったいないです。昭和世代の男性が作り上げたシステムの中で、即時的な情緒的満足や社会的達成感を求めるより、長期的な自己投資をおススメします。体は衰えます。至適時期に、priority の高いissueに、「時間」と投資すべきです。
女性にとって妊娠出産にはタイムリミットがあるため、どうしても出産を希望するならば早い時期に出産し、その後キャリアを積める環境を整える必要はあると思います。
女性は出産をする場合は物理的に働けなくなる期間がある事、復帰後もフルで働きたい場合は親など頼る人がいないと現時点では難しいという事は知っておいた方がいいと思います。また、出産を望むかどうかもすぐに決める必要はないが早いうちから考えておく必要はあると思います。ただ、案ずるより産むが易しで意外とどうにかなる事も多いので、将来に悲観的になった場合は自分のなりたい将来像に近い先輩に聞いてみるといいです。
女性は将来育児問題があることを学生時代から意識する必要がある
女性は難しいと思います
将来、どのようになりたいか決めてから科を選ぶ。
将来、開業したいか、大きな病院で勤務したいかによって必要な研修先は変わるため、情報収集をする。
将来どういう風に働きたいのか、出産や結婚をしたいのか、キャリアを積みたいのか、支援は広がっては来ているが、ある程度選択を迫られるため、何を重視したいのかを職場や科の選択を行うこと。
将来どのような医師になりたいか、何をやりたいかを考えましょう。なぜ医師を目指したのかを思い出して過ごしましょう。
将来どのような職場で働きたいかによって必要なスキルや勉強することも変わってきます。いろいろな年代、職場の先生方の生き方をきいてみるといいと思います。(開業、地域、大学病院、海外など)
将来にたいして早めに計画する。
将来のプランは常に変動するので、特に考えるべきことはないように思いました。
将来を見据えて勉学に励んで欲しい
将来医師になったときに仕事以外の時間で何をしたいのかを学生時代に固めておくといいかないと思います。
僕は家庭の時間を確保したいと思っていたので子どものいる先輩の先生方にお話を聞いてました。”
将来設計、仕事量や家庭とのバランス、こうせねばならないと思わないこと。
将来設計を具体的に考えておく
少人数で続けられる趣味を持つ。
場面場面でベストな判断をこころがける意識づけが必要。学生に対して先々のことの情報を与えることは、当事者になるまで真の意味では理解はできないし、時代もどんどん変わるため、世代間のコミュニケーションを取るツールぐらいにしかならず、さして意味はないと考えています。
常にイメージトレーニングしておく
常に簡単な道を選ばない。
常に志を高く持つこと
職業選択の自由があり、日本では希望する診療科に進むことが許されているが、医師という職業の社会的使命を自覚して考えてほしい。QOL 重視も多様性のある選択肢として許されるべきだが、自分が医学部に合格した時に、医学部への進学を断念した人もいる事を自覚してほしい。医師の仕事はもっと楽になる(激務から解放される、断らない医療等という綺麗事が称賛されない)事は、患者が変わらない限り(フリーアクセス、国民皆保険)無理だが、選挙がある限りこの点への介入は難しい。すなわち、医師の働き方改革を進める事は困難であり、気概を持って医師の道へ進んでほしい。正直 18 歳でこの選択を迫られるのは酷だが、制度だから仕方ない。医師はとても素晴らしい職業。一生勉強しても飽きない、こんな素晴らしい分野はそうそうないと思います。せっかく医学部に入ったので、その努力を自分のために活かせるように頑張ってください。
色々なことを勉強しておくこと
色々な人の話を聞く
色々な先生方の働き方、生き様を見て、それに関する話を伺う機会があるのなら機会を逃さないようにすべきです。
色々な働き方や夫婦のバランス知ること、パートナー選びの大切さを知ること
色々な人や様々な業種の人と接して、コミュニケーション能力を培っておくこと。
人として手本になれない医者が多過ぎます。医学部の教室を見回して下さい。それが、医師達の縮図です。人としての振る舞いを勉強して下さい。
人とのつながりをいかに広げられるか、でしょうか。
人生のステージには結婚や出産など自分だけの都合ではどうにもできないことがあり、年齢や出産前後によって考えも変わることもあると思います。周囲の援助なども人によって異なるので、より多様性のある働き方が求められると思いますが、まだ十分環境は整っていないのが現状だと思います。大まかなライフプランを考えるのは大切だと思います。
人生の見通し・・・と言っても私には全く考えられませんでした。交際相手もおらず、その時その時を生きるので手一杯だったので。私たち先輩医師が多様な働き方を選べるようになれば、学生さんたちにも様々なロールモデルを示せるということにも繋がるので、そうなれば良いと思います。

人生を楽しむ。
人生を仕事に捧げるようになってしまうことも多々あるので、そうなりたくない学生は、そのあたりの雰囲気もよくみて、適切な診療科選びをするのがよい。
人生設計というほどではないが、どこで、どういった形で仕事に従事していきたいかを漠然とでも考えておいた方がよいのではないか。
人脈を広げ、ロールモデルを知っておくことが大事だと思います。
医師の働き方も多様化しており、学生のうちから知ることでキャリアを考えるきっかけになると思います。
性差別はまだ根深くあると思うので進路は慎重に選んでください。
性別問わず、多種多様な価値観に触れること、人間関係をうまく回すにはギブアンドテイクが必要であること。「こうでなければならない、というべき論」をやめること（育児と仕事が自分の理想よりも上手くいかない時に、抑うつがちになる）。性別問わず、産休・育休の法律、制度を知っておく（男性も将来の同僚の支援をする上でどこまで法で認められているのかを知っておく）
成り行きに任せるのが大事
生活をとるか給料をとるか仕事をとるか、何につけ優先順位をしっかりと決めたほうが良い
先のことあまり考えても、と思うので今を精一杯生きる
先を見据えた意識が大切だと思う
先輩医師の話色々聞いておくモチベーションの維持にもなるし、将来の想像ができて良いと思います。
素晴らしい取り組みをされていると思います。この調子で頑張ってください！"
専門医のこと、家庭をもつことなど早めに想像しておくこと。
専門医の取得条件と年限を調べておくこと。周りに流されず自分の納得できる道を選ぶこと。
専門医取得のために研鑽を詰める医療機関に勤務すること。
専門医取得やその後のキャリアについてある程度考えておくことや、女性医師としての働き方への理解
選ぶ科は興味のある科でよいと思うが、女性は特にライフバランスも考慮したほうが出産後に助かる。将来の自分をよく考え、医学に邁進してください。
前問でも記載したように、少なくとも何か一つは専門医を取得するなど、5年スパンくらいで身近な目標を立てておくことも重要と感じている。
全国にどのような病院があるか大まかに知ること、英語（英会話）を勉強すること
素の身の丈に合った分野はなにか考えておく 好きな科目と実現できる科目は違います
組織、日本全体の在り方を考えてほしい。個を優先すればしわ寄せがくる。
早くライフワークとなる仕事のやりがい、興味を見つけることです
早めに人生プランを立てておくのがいいかと思います。
相性の良い配偶者と友達・先輩を見つけること。長く付き合うには相性が最も重要。
卒業までに希望する専門領域を決めてしまうこと。決めずに初期研修が始まると初期研修が学生時代のポリクリの延長になってしまうが、決めていれば初期研修で学べべき事柄が明らかになりやすい。
卒業後15年間、どんな医師生活を送りたいか。17時で終わりプライベートを確保できるような道に進みたいのであればそれも一つの選択肢。夜中も緊急で呼ばれるような道に進みたいのであればそれも一つの選択肢。その間に女性で将来結婚・出産もしたいのであれば、協力が得られる環境の自身の両親がいるようであれば、近くで生活することが出産後仕事再開時期にとっても助けられると思う。
卒後数年はしっかりと仕事をするので、1年程度の休業であってもある程度自信を持って復帰することができる。
働き方、働く場所(土地)、卒後10年後の生活の想像を考えておくのがよいのではないのでしょうか。"
卒後に多くの選択肢が用意されている進路選択をお勧めします。
他者とのコミュニケーション能力をつけてください
多種多様な価値観があるため正解がないが、医師になったからには一生考え続けなければならない命題である。
多様な人、価値観と出会う経験をして、自分の将来や患者さんを見る眼差しを多角的に持てると良いと思いました
多様な人と交流し、社会経験を積む。視野を広く持つ
多様性といいながら、なんとなく、結婚しているとか、子供がいるとかが「良いこと」のような風習から脱却できるようにしてはどうでしょうか。また、イクメンという言葉があるのに、イクウーメンという言葉はありません。育児は手伝うものではなくて、「する」ものという意識を男性に持ってほしい。女性も育児をするのは大変だと思うけれど、それを支えている人が必ずいることを忘れないでほしい。
対等な関係を築くことができるパートナーをみつけてください。
大分大学を10年前に卒業した者です。卒業後すぐ地元である長崎に帰ったので、このようなかたちで少しでも恩返しできてうれしいです。学生の時は皮膚科の藤原作平先生の授業がおもしろく、とにかく衝撃をうけたのを覚えています。他の科も迷いましたが皮膚科に入局しました。当時小児科は試験が大変でしたが、おかげで小児科の知識が定着しています。全学サークルに所属しており、現在の夫は教育学部でしたが、当時のメンバーです。（学生時代は付き合いませんでした）。大学時代からよく勉強したり旅行に行った友達とはいまでも連絡取り合っって仲良くさせてもらっています。
つまり、何がきっかけになるか、なにが将来につながるかわかりません。学生の時楽しめることをしっかり楽しんで、試験前はきちんと勉強していただければと思います。ただ、結婚はいつでもできると思

<p>いますが、出産は年齢がつかまとうので、欲しいかどうか、いつまでに産みたいかは考えておいてもいいと思います。良い研究になることを期待します。頑張ってください。"</p>
<p>男子学生には育児や家事の共有の啓発（学校教育の成果かすでに理解している、むしろ私たちが古い考え）、女子学生にはキャリアを維持するロールモデルを意識してもらうこと（こういう先輩がいる、同僚がいる、ということを知ることが重要な？）</p>
<p>男女関係なく、多様な働き方のスタッフがいる病院を選ぶと良いと思います。人生設計をたてていても、計画通りにうまくいくとは限らないので多様性重視だと思います。自分の目標となるの働き方をしている先輩を探すことが、最初の一步だと思います</p>
<p>男性および女性の意識改革、家事も、仕事も同等にする権利があることを忘れないでほしい。女性が遠慮したり、男性が仕事に専念するのが当然との意識を捨ててほしい。</p>
<p>男性も育児に参加し、女性の両立を理解しておくようにする</p>
<p>長い医師人生において、最短コースでのキャリア形成にこだわる必要は全くなく、結局は本人がその時その時にできることを真剣に考えていくことが重要だと思います。</p>
<p>長い目でみた医師としての幸せとは何かを考える</p>
<p>長い目で将来を考え、たとえ育児や病気で中断しても自分の医師としての仕事を辞めないという決意、生涯に渡り学問する人生の充実感、家族と一丸となって協力し過ごす両立生活は子供達にとっても素晴らしいものだと思いたい</p>
<p>長期ビジョンを学生の時から意識して、研修病院や勤務先を選ぶことが重要だと思います。</p>
<p>投資等の資産管理の勉強、時間のある学生のうちに海外生活経験をするべき。</p>
<p>当直や拘束時間も考慮して、ライフスタイルもイメージして診療科を選ぶといいとおもいます。</p>
<p>頭で思い描いているような人生が必ずしも送れるわけではない。でも毎日仕事もプライベートも全力で向き合えば素敵な人生になると思います。楽しんでください。</p>
<p>頭の中で考えるのは限界があるので、やってみて考える事。周囲への感謝を忘れない事。</p>
<p>働き始めてみないと分からないことがほとんどですので、学生のうちはあまり考えすぎなくてもいいのではないのでしょうか。機会があれば先輩の話聞いてもいいかもしれません。</p>
<p>大変なこともあります。工夫次第で家庭と両立しながらいくだけでもキャリアを積めます。無理と思ったらそれ以上には進みませんが、自分の目標のためにできることを続けていけば道は開けると思いますが。頑張ってください。"</p>
<p>働き始めると時間に制約があるので、やはり遊べる時に遊ぶが大事です</p>
<p>働き出して数年は仕事だけで、いっぱいになりがちなので、人生プランも学生のうちから組み立て準備できたとしても良いと思います。ただ働き出してから価値観が変わることがままあるので、するとプランも相応に変わってしまいます。働き出してから頑張るでもいいかも知れません。</p>
<p>働く意義や目標を意識すること</p>
<p>働く上で何を重視するのか、やりがいとは何か学生のうちに考えておく方が良いと思います。選んでみて違えば変更することもできます。</p>
<p>働く目的を明確にすることでしょうか。何故、医者になりたいのか、どのような医者になりたいのか、医師としてどのような社会貢献ができるか、真剣に考えておく方が良いかもしれません。</p>
<p>医師は社会貢献度の高い職業であり、巡り巡って自分自身の幸せ、自分の子供達が幸福に過ごせる未来へと繋がっていくと思います。学生の皆さんの素晴らしい力を、家事・育児だけに費やらず、医師として自分も大事に育てて活躍してほしいと思います。"</p>
<p>同僚と仲良くし、困ったときにお互い自然と助け合える環境を作ることが重要</p>
<p>特にないが、英語はもっと勉強しておくべきだった。</p>
<p>特にないと思います。学生の間いっぱい遊んでおいたほうが良いです。子供生まれたらガクッと自由時間なくなります。ゼロになるわけではないですが、この人と結婚しそう、というような人が現れたら、その人に自分の希望の働き方のスタンスは伝えておいたほうが良いと思います。私は旦那に、出産後も働くし、夜勤や当直もするつもりだとじわじわとアピールしつつけて、結果いまは産前ほどではありませんが、外勤の当直も行ったっています。</p>
<p>独身と家庭を持つのでは働き方を変えざるを得ません。</p>
<p>自分が仕事が優先なのか家族と過ごす時間を優先するのかという人生を歩みたいかよく考えてください"</p>
<p>内科はやめた方がいい</p>
<p>日々勉強すること</p>
<p>年齢や生活スタイルにより、出来る仕事は変わります。</p>
<p>いま、自分に出来ることをしっかり身につけて、色々な状況になっても対応出来るように、若いうちに幅広い知識と経験を積むと良いと思います。"</p>
<p>配偶者選びは非常に重要</p>
<p>病態生理学、勉強のやり方を身につける、pubmed などの使い方</p>
<p>幅広い経験（ぜひ世界を見ておいて）、働きだすとまとまった時間は取れない</p>
<p>幅広い視野を持って人間性を高めるようにしてください（学生の間診療科を決定することはおすすめしません）。</p>
<p>勉強、遊び、部活をバランスよくしたほうが良いです</p>
<p>勉強することが大切だと思います。</p>
<p>勉強ばかりでなく、人間理解を深める社会勉強をしておくことかと。多くの人とお話する機会を作ると</p>

良いかと思えます。
勉強も遊びも精一杯頑張る
方向転換も学ぶこともいつからでもできるが、いつでもやっていた方がいい。
本当にやりたいことや目標がある人はそれに向かって進めばいいと思います。
学生のうちに結婚等を視野に入れている人がいる場合は、自分だけでなく相手とよく話し合って今後の生活をどうするか、話し合っておくとよいと思います。
現代社会においては家庭生活も重視されるべきですので、出産・育児等を考えている人はできるだけロールモデルのいるもしくは理解のある職場を探されるとよいと思います。"
未来のことを考えるよりも、勉強、遊び、恋愛など目の前のことに一生懸命に取り組むことが大事だと思う。先のことを予測しても、世界は変わるし、自分自身の価値観も変わっていくから。
未来の事を予測して、今やるべき事(人によって違う)を早めにやっておくこと
明確な目標をもって生活することが大切だと思います。
面白い(興味がある)がある領域は何かをみつける(努力をする)こと。
目の前のことに一生懸命と取り組む。取り組むものがなければ起業家精神を学んだり、USMLE を取得するのも良いかもしれない。
目指すべきロールモデルを見つけること
目先だけでなく、5年後や10年後の自分をイメージしながら勉強や準備する事が大事です。
目先の試験に追われる生活ではなく、早くから長期的視点でキャリアアップを意識すること。
目標・理想とする医師像、それに向かって努力すること。
しんどくない仕事なんてないので「育児と両立できる」とかを第一に仕事を選んでしまうようにいかないでしょう。「こんなはずではなかった」と後悔したり周囲を恨むことになると思います。"
目標をもって仕事を継続する。育児と仕事の両立に完璧を求めない。
目標を持つこと
遊ぶこと、やらかすこと。
遊んでおくこと
様々なことに興味を持つこと
様々な価値観があってもよいこと、キャリアパスが一つではないこと、最短が必ずしもベストではないかもしれないこと、活用できるリソースなどを知っておくこと。
理想とする仕事と家庭と趣味の比重を自分で分かっておくこと
理想の配偶者はどのようなスペックを持つべきか、恋人とは違う視点で考える必要がある。自己実現のためには結局配偶者と家族の理解が最も大事だと思う。
両立するために仕事を制限するというより、自分のキャリアパスを考え可能な方法を模索する方が医師人生が充実すると思います。
良い指導者がいないということに不満を持つ人が多いように思いますが、困ったこと、わからないことが生じたときに自分で考えて解決することができるのが何より大切です。悩むことに慣れてほしいと思います。
臨床実習を頑張っ、医師としての礼儀や作法を学んでほしい
礼節をわきまえること。
恋愛は自由だが結婚は早まるな。
しっかり見学へいき、医局の雰囲気を見ること。自分の理想の働きが出来ている先輩が存在するのか確認すること。
キャリアを具体的に描けるような教育を行って、自ら考えてもらうことが重要
キャリアパスについて考えておくことは結果的にその道と異なる方向に進んだとしても役に立つと考える。